

日本農業気象学会 2026 年全国大会 講演プログラム

Program of the International Symposium on Agricultural Meteorology 2026 (ISAM2026)



2026年3月17日(火)～19日(木)
筑波大学 つくばキャンパス 春日エリア

17-19 March, 2026
Tsukuba University, Tsukuba Campus Kasuga Area

目次 Index

大会案内 General information.....	2
スケジュール Schedule	3
地図・構内図・昼食情報 Map & Lunch information	4
公開シンポジウム Public symposium.....	7
若手の会.....	8
懇親会 General banquet	8
企業展示 Corporate exhibitions	8
口頭発表プログラム Oral presentation program	9
ポスター発表リスト Poster presentation list	18
発表における注意事項 Information for presenters	22

大会案内 General information

日本農業気象学会 2026 年全国大会

International Symposium on Agricultural Meteorology 2026 (ISAM2026)

■ 日時 Date

2026 年 3 月 17 日（火）～19 日（木）

17-19 March, 2026

■ 会場 Venue

筑波大学 つくばキャンパス 春日エリア（茨城県つくば市春日 1 - 2）

Tsukuba University, Tsukuba Campus Kasuga Area (1-2 Kasuga, Tsukuba, Ibaraki 305-8550 Japan)

■ 事務局 Office

〒305-8604 茨城県つくば市観音台 3 - 1 - 3 日本農業気象学会 2026 年全国大会事務局

Executive Committee of ISAM2026 Office, 3-1-3 Kannondai, Tsukuba, Ibaraki 305-8604 Japan

メール Mail: samj2026@ml.affrc.go.jp

■ 日本農業気象学会 2026 年全国大会実行委員会

大会委員長 長谷川 利拡（農研機構）

実行委員長 西森 基貴（農研機構）

事務局長 石郷岡 康史（農研機構）

事務局次長 丸山 篤志（農研機構）

実行委員 浅野 裕樹（筑波大学） 飯泉 仁之直（農研機構） 小野 圭介（農研機構）

金 元植（農研機構） 木村 建介（農研機構） 日下 博幸（筑波大学）

熊谷 悦史（農研機構） 佐々木 華織（農研機構） 滝本 貴弘（農研機構）

戸田 悠介（農研機構） 彦坂 晶子（千葉大学） 福岡 峰彦（農研機構）

松田 怜（東京大学） 吉本 真由美（農研機構） 若月 ひとみ（農研機構）

表紙写真：筑波山梅まつり（つくば市提供）

スケジュール Schedule

日付 Date	時間 Time	全国大会 (SAMJ2026)	ISAM2026
3月17日 (火) 17 March	8:50-	受付 Reception	
	9:15- 12:00	オーガナイズドセッション [A] 一般研究発表 (口頭発表) [BC]	Oral session [B]
	12:00- 13:00	和文誌編集委員会 [C]	
	13:15- 14:15	一般研究発表 (口頭発表) [AC]	Oral session [B]
	14:30- 16:30	オーガナイズドセッション [AB] 一般研究発表 (口頭発表) [C]	
	17:00- 18:30	若手研究者の会 [A] 技術開発・普及研究部会 [B]	
3月18日 (水) 18 March	8:50-	受付 Reception	
	9:00- 12:00	オーガナイズドセッション [A] 一般研究発表 (口頭発表) [BC]	Oral session[B]
	12:00- 13:00	英文誌編集委員会 [C]	
	13:30- 15:00	表彰式・学会賞受賞者講演 Award winners lecture [S]	
	15:30- 17:30	一般研究発表 (ポスター発表)・ 高校生研究発表 [P]	Poster session [P]
	18:00- 20:00	懇親会・ポスター賞表彰 [食堂] General banquet, Poster award ceremony [Banquet Venue]	
3月19日 (木) 19 March	8:50-	受付 Reception	
	9:30- 11:45	オーガナイズドセッション [A] 一般研究発表 (口頭発表) [BC]	
	11:50- 12:50	理事昼食会 [C]	
	13:00- 17:00	公開シンポジウム Public symposium [S]	

会場略号 Room abbreviation

[A]	会場A (102 教室)	Room A (102)
[B]	会場B (101 教室)	Room B (101)
[C]	会場C (210 教室)	Room C (210)
[P]	ポスター会場A, B, C (104, 105, 106 教室)	Poster room A, B, C (104, 105, 106)
[S]	春日講堂	Kasuga Auditorium

地図・構内図・昼食情報 Map & Lunch information

■ アクセスマップ Access map

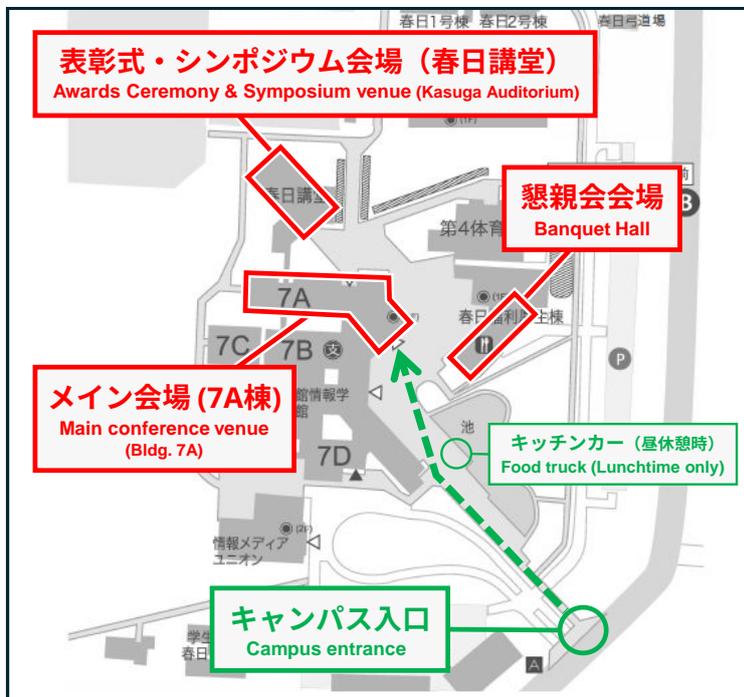


会場はつくば駅から徒歩約10分の場所にあります。

駐車場のご利用はできませんので、公共交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。

The venue is located approximately a 10-minute walk from Tsukuba Station. Please note that parking is not available on site; attendees are kindly requested to use public transportation.

■ 構内図 Campus map



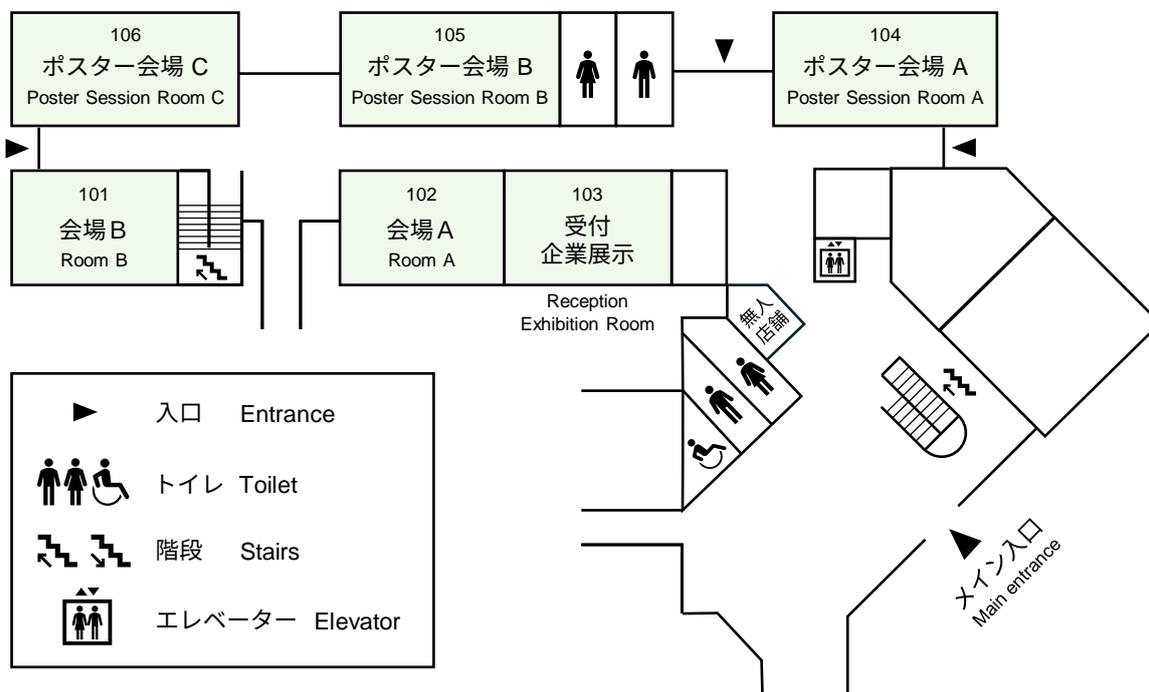
構内は禁煙です。

春日キャンパスの食堂は昼食等で使用することはできません。地図に示す場所(池の前の広場)でキッチンカーによる食事提供があります。また、つくば駅周辺、天久保エリア、天久保ショッピングセンター等の飲食店もご利用ください(6ページに地図あり)。

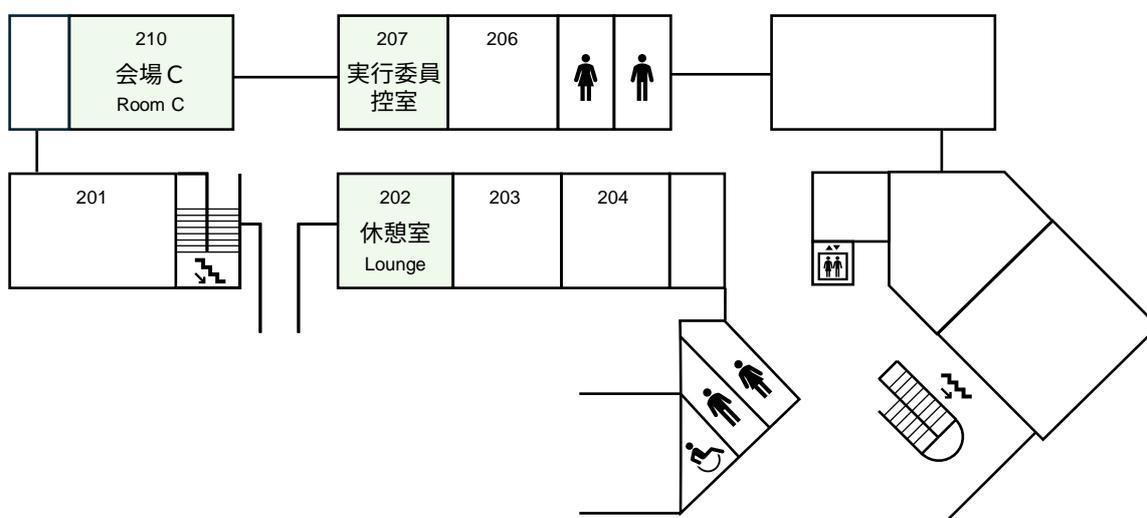
Smoking is prohibited on campus. The cafeteria on the campus is not available for lunch during the conference. Food will be provided by a food truck. You may also use the restaurants around Tsukuba Station, in the Amakubo area, and in the Daigakudoori Shoutengai (map in P.6).

■ メイン会場フロアマップ Floor plan of the main venue

1F



2F



忘れ物をした場合、大会期間中は受付にお越しく下さい。その後は大学構内の落とし物として処理されます。また、忘れ物を見つけた際は受付にお持ちください。

当大会では参加者向けの Wi-Fi はありませんが、eduroam はご利用いただけます。

If you lose any personal items during the conference, please come to the reception desk. After the conference period, all unclaimed items will be handled as lost property on the university campus. If you find any lost items, please bring them to the reception desk.

No conference-specific Wi-Fi is provided at the venue; however, eduroam is available.

■ 昼食 Lunch

キッチンカーによる食事提供があります。場所は構内図をご参照ください。

価格・支払い方法・詳細なメニューについては右のQRコードからご覧ください。

On-site food trucks will provide lunch service. Please refer to the campus map for the locations. For pricing, payment options, and detailed menus, please scan the QR code.



3月17日(火) 17 Mar.	3月18日(水) 18 Mar.	3月18日(木) 19 Mar.
カフェ ゼロセカンド	パンさんの店	Café PINON
① 秋田食彩弁当 Akita specialties bento	③ ルーロー飯 Lu Rou Fan (Taiwanese braised pork rice)	⑦ 煮込みハンバーグ弁当 Braised Hamburg Steak Bento
② ベーグルフレンチ トーストランチBOX Bagel French Toast Lunch Box	④ チャーシュー丼 Chashu Pork Rice Bowl	⑧ ハッシュドビーフ Hashed Beef (Hayashi Rice)
	⑤ 台湾ルーロー焼きそば Taiwanese-Style Lu Rou Yakisoba (fried noodles with braised pork)	
	⑥ 牛タン焼きそば Beef Tongue Yakisoba	

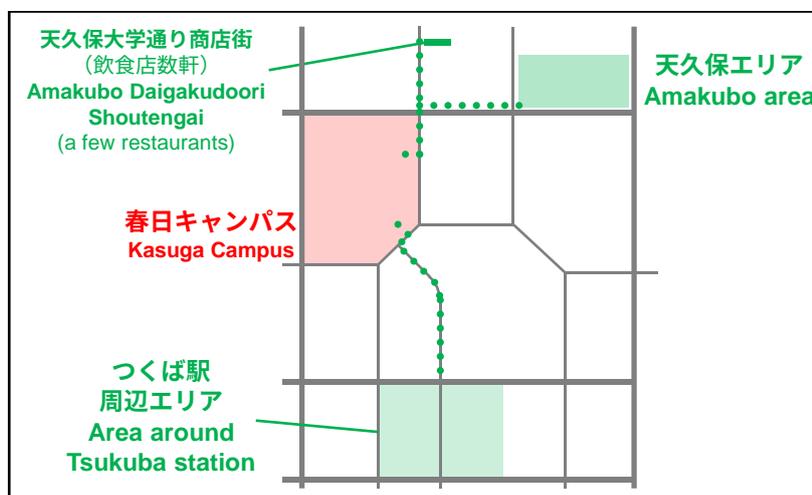


昼食時の飲食には口頭発表会場 A, B と休憩室をご利用ください(会場 C では委員会等が開かれます)。

Lunch may be taken in Rooms A, B and in Lounge (Room C will be used for meetings).

また、つくば駅周辺、天久保エリア、天久保大学通り商店街等の飲食店もご利用ください。

You may also use the restaurants around Tsukuba Station, in the Amakubo area, and in the Amakubo Daigakudoori Shoutengai.



公開シンポジウム Public symposium

「農業分野における気候変動対策技術の科学的評価のための気象情報と ヒストリカルデータの連携の重要性」

オーガナイザー 長谷川利拡（農研機構農業環境研究部門）

日時 2026年3月19日（木）13:00-17:00

場所 筑波大学筑波キャンパス春日エリア（茨城県つくば市春日1-2）
Microsoft Teams によるオンライン配信あり

申込 対面・オンライン問わず、フォームからお申し込みください。

学会員以外も参加可能です。<https://forms.office.com/r/YwBAw1RgTY>

参加費 公開シンポジウムのみ参加の場合は無料です。

■ プログラム

時間	内容・講演タイトル	講演者（所属）
13:00- 13:05	開会挨拶・趣旨説明	長谷川利拡
13:05- 13:30	話題提供①「地域気象・気候モデルの概要と農業気象研 究への活用」	日下博幸 （筑波大学）
13:30- 13:55	話題提供②「水稻の高温影響評価モデルと全国栽培試験 データの連携による適応技術効果の定量評価」	若月ひとみ （農研機構農業環境研究部門）
13:55- 14:20	話題提供③「育成地ヒストリカルデータ×気象・土壌水 分情報で見るダイズの高温・乾燥影響と障害リスク」	熊谷悦史 （農研機構農業環境研究部門）
14:20- 14:45	話題提供④「NARO 生育・収量予測ツール（③露地野 菜）を活用した露地野菜安定生産の取り組み」	佐藤文生 （農研機構野菜花き研究部門）
14:45- 15:00	休憩	
15:00- 15:25	話題提供⑤「花き生産における気象・農業データ連携の 現状と課題」	牛尾亜由子 （農研機構野菜花き研究部門）
15:25- 15:50	話題提供⑥「果樹における気象・農業データ連携の現状 と課題」	杉浦裕義 （農研機構果樹茶業研究部門）
15:50- 16:15	話題提供⑦「気候変動がもたらす斑点米カメムシ類の分 布拡大の現状」	田淵研 （農研機構東北農研センター）
16:15- 17:00	総合討論「科学的根拠に基づく気候変動対策技術の社会 実装とプラットフォーム活用」	モデレーター：西森基貴 登壇者：話題提供者

若手の会

「研究も生活も快適に：研究環境づくりと働き方のヒント」

日時 2026年3月17日（火）17:00-18:30

場所 筑波大学筑波キャンパス春日エリア（茨城県つくば市春日1-2）会場A

Microsoft Teamsによるオンライン配信あり

参加方法 事前に Google フォームよりご登録ください。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeSjAriiEtIOZ3vW0YWUwZNCb8-fsB5mJylSrrLqSOhouXLWA/viewform>

講師 吉田 映子様（電力中央研究所）

戸田 悠介様（農研機構）

山崎 富弘様（高知大学 IoP 共創センター）

懇親会 2026年3月17日（火）19:30- Beer&Cafe Engi 【縁起】

懇親会 General banquet

場所 筑波大学つくばキャンパス春日エリア食堂

日時 3月18日（水）18:00-

参加には申し込みが必要です（既に締め切られました）。

Location Cafeteria, Kasuga Area, Tsukuba Campus, University of Tsukuba

Date 18 March 18:00-

Registration is required for participation (registration has already closed).

企業展示 Corporate exhibitions

以下の企業様に、2026年全国大会へご協賛いただきました（順不同）。103教室の企業展示ブースに是非お立ち寄り下さい。各社様の広告は巻末にございます。

なお今大会に限り、より多くの企業様に賛助会員となって頂くことを目的としたキャンペーンとして、賛助会員の企業様には参加費のみで展示・宣伝が可能となるように企画いたしました。

キャンベル・サイエンティフィック・ ジャパン株式会社	展示・広告	https://www.campbellsci.co.jp/
アカデミックエクスプレス株式会社	展示・広告	https://www.academic-express.com/
クリマテック株式会社	展示・広告	https://www.weather.jp/
株式会社ブリード	展示	https://www.prede.com/
英弘精機株式会社	展示・広告	https://eko.co.jp/
パシコ貿易株式会社	展示	https://www.pacico.co.jp/
フルタ電機株式会社	展示・広告	https://fulta.co.jp/
旭光通商株式会社	展示・広告	https://kyokko.com/
メイワフォーシス株式会社	展示	http://www.meiwafosis.com/

口頭発表プログラム Oral presentation program

■ 概要 Summary

日付 Date	会場A Room A	会場B Room B	会場C Room C
3月17日 (火) 17 March	9:15-12:00 日本農業気象学会 OS-4 Breathing of the biosphere : フラックス観測に基づく 生態系機能解析の現状と展望 伊川 浩樹、平田 竜一、 岩田 拓記、植山 雅仁	9:15-10:15 ISAM Session B01	9:15-10:15 日本農業気象学会 セッション C01
		10:30-11:30 日本農業気象学会 セッション B02	10:30-11:45 日本農業気象学会 セッション C02
	13:15-14:15 日本農業気象学会 セッション A03	13:15-14:15 ISAM Session B03	13:15-14:15 日本農業気象学会 セッション C03
	14:30-16:30 日本農業気象学会 OS-5 GHG 緩和の新たなシーズと 展開：メカニズム解明から コベネフィット・ トレードオフまで 小野 圭介、常田 岳志、 南川 和則	14:30-16:30 日本農業気象学会 OS-2 気候変動に頑健な農業生産に 向けた農業気象学の貢献 滝本 貴弘、飯泉 仁之直、 増富 祐司	14:30-15:30 日本農業気象学会 セッション C04 15:45-16:30 日本農業気象学会 セッション C05
3月18日 (水) 18 March	9:00-12:00 日本農業気象学会 OS-1 対流圏オゾンと植物の 相互作用に多角的にせまる Various aspects of interactions between tropospheric ozone and plants 谷 晃、高木 健太郎、 和田 龍一、渡辺 誠	9:00-10:15 日本農業気象学会 セッション B06	9:00-10:15 日本農業気象学会 セッション C06
		10:30-11:30 ISAM Session B07	10:30-11:15 日本農業気象学会 セッション C07
3月19日 (木) 19 March	9:30-11:30 日本農業気象学会 OS-3 施設園芸の持続可能性と 園芸工学 松田 怜、地子 智浩	9:30-10:30 日本農業気象学会 セッション B08	9:30-10:30 日本農業気象学会 セッション C08
		10:45-11:45 日本農業気象学会 セッション B09	10:45-11:45 日本農業気象学会 セッション C09

3月17日(火)午前 AM, 17 March			
	会場A Room A	会場B Room B	会場C Room C
9:15	OS-4 Breathing of the biosphere : フラックス観測に基づく 生態系機能解析の現状と展望	Chairperson: Yusuke Toda (NIAES, NARO)	座長 吉田 龍平 (福島大学)
	OS4-01 東南アジアの熱帯泥炭地における二酸化炭素とメタンの正味放出量に与える土地利用変化と干ばつの影響 ○平野 高司 ¹ , 白石 知弘 ² , 平田 竜一 ³ , 林 真智 ³ , デスマク チャンドラ ⁴ , メリング ルリ ⁵ , アミット ベティコバ ⁶ , 伊藤 雅之 ⁷ , 加藤 知道 ¹ , キューフランキー ⁵ , クルニアント ソファン ⁴ , クシン キッソ ⁸ , ナルディ ナルディ ⁴ , ヌルホルス ヌルホルス ⁴ , ニャワイ ティアラ ⁶ , ルンパン エリサ ⁶ , 坂部 綾香 ⁷ , スサント アリ ⁴ , ワイリ ジョセフ ⁵ , ウォン グァン ⁵ (1北海道大学, 2日本文理大学, 3国立環境研究所, 4APRIL, 5サラワク州熱帯泥炭研究所, 6マレーシア・アブラヤシ庁, 7京都大学, 8パラカラヤ大学)	B01-01 Deep-learning-based high-resolution processing of Himawari meteorological satellite data ○Issei Sakuma ¹ , Keiji Okada ¹ (1Hokkaido University Graduate School of Agriculture)	C01-01 気象条件から見た北陸地方における NARO 方式乾田直播の適地検討 ○小南 靖弘 ¹ , 山口 弘道 ² (1農研機構北海道農業研究センター, 2農研機構中日本農業研究センター)
9:30	OS4-02 渦関データセットを用いた東アジア生態系の蒸発散の特性解析 ○鍋山 智也 ¹ , 岩田 拓記 ¹ , 植山 雅仁 ² , 高尾 勇太 ² (1信州大学, 2大阪公立大学)	B01-02 Evaluating Within-Season Weather Aggregation in Machine-Learning-Based Rice Yield Prediction ○Kwang-Hyung Kim ¹ , Noh-Hyun Lee ¹ , Wonjae Jeong ¹ , Hyeon-Ji Yang ² , Hana Cho ¹ , Hyeon-Yeong Ju ³ , Toshichika Iizumi ⁴ (1Department of Agricultural Biotechnology, Seoul National University, 2Agro-Environment Research institute, EPINET Co., Ltd, 3Plant Disease Control Division, National Institute of Agricultural Sciences, 4National Agriculture and Food Research Organization)	C01-02 福島県における水稲「天のつぶ」乾田直播栽培の播種晩限日の面的推定 ○舩谷 悠祐 ¹ , 佐藤 弘一 ² , 齋藤 正頼 ² , 新妻 和敏 ² (1岩手大学, 2福島県農業総合センター)
9:45	OS4-03 Temperature and moisture regulate greenhouse gas emissions across organic and active soil layers in interior Alaska ○王 瑞昕 ¹ , 永野 博彦 ¹ , 小林 秀樹 ⁴ , 甘田 岳 ³ , 岩花 剛 ² (1Niigata university, 2International Arctic Research Center, University of Alaska Fairbanks, USA, 3Forestry and Forest Products Research Institute, Japan, 4Institute of Arctic Climate and Environment Research, Research Institute for Global Change, Japan)	B01-03 Image-based monitoring of root biomass in hydroponic crops using machine learning: A comparative study of RGB and hyperspectral imaging ○Ziyi Jin ¹ , Daisuke Yasutake ^{2,3} , Gaku Yokoyama ² , Shigehiro Kubota ² , Tomoyoshi Hirota ² (1Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, 2Faculty of Agriculture, Kyushu University, 3IoP Co-Creation Center, Kochi University)	C01-03 東北水稲作柄表示地帯ごとの耕種期日のトレンド検出 ○井上 聡 ^{1,2} , 大久保 さゆり ² , 金谷 真希 ² (1新潟薬科大学, 2農研機構)
10:00	OS4-04 永久凍土上のクロトウヒ林の蒸発散量の20年規模変動の評価 ○桑原 隼大 ¹ , 植山 雅仁 ^{1,3} , 岩田 拓記 ^{2,3} (1大阪公立大学, 2信州大学, 3日本農業気象学会)	B01-04 Development of a Web-Based ROS2 Digital Twin Framework for Multifunctional Agricultural Robots in Greenhouse Environments ○Sutan Awal ^{1,2} , Sakurai Yamato ² , Koichi Nomura ¹ , Daisuke Yasutake ³ , Takashi Okayasu ³ , Masaharu Kitano ¹ (1IoP Collaborative Creation Center, Kochi University, 2Graduate School of Bioresources and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, 3Faculty of Agriculture, Kyushu University)	C01-04 CLIMEX モデルを利用した気候変動下におけるハスモンヨトウの全球的発生分布の評価 ○川北 哲史 ¹ , Zalucki Myron ² , Kriticos Darren ^{3,2,4} (1農研機構西日本農業研究センター, 2The University of Queensland, 3Cervantes Agritech, 4Macquarie University)
10:15			

3月17日(火) 午前 AM, 17 March			
	会場A Room A	会場B Room B	会場C Room C
10:30	OS-4 Breathing of the biosphere : フラックス観測に基づく 生態系機能解析の現状と展望	座長 矢崎 友嗣 (明治大学)	座長 岩崎 千沙 (農研機構農環研)
	OS4-05 北海道の飼料用トウモロコシ 生態系における複数年の二酸化炭素収 支解析 ○大津 直也 ¹ , 伊川 浩樹 ² , 平野 高 司 ³ , 堀越 瑞貴 ^{1,4} , 中島 大賢 ³ , 北野 雅治 ⁴ , 梁 乃申 ⁵ (1北海道大学大学院 農学院, ² 農研機構北海道農業研究セン ター, ³ 北海道大学大学院農学研究院, ⁴ 高知大学 IoP 共創センター, ⁵ 国立環境 研究所地球システム領域)	B02-01 静止衛星ひまわりのデータを用いた日本の大都市域のヒートアイラ ンドの要因評価 ○小川 実咲貴 ¹ , 植山 雅仁 ¹ , 山本 雄平 ² , 市井 和仁 ² (1大阪公立大学, ² 千葉大学)	C02-01 パラメータの性質に着目した 作物モデルの不確実性の検証 ○加藤 大志 ¹ , 岡田 啓嗣 ¹ (1北大院 農)
10:45	OS4-06 An Overview of KoFlux Activities and Recent Data Contributions to the FLUXNET Data System ○Kang Minseok ¹ (1Gangneung- Wonju National University)	B02-02 水稲圃場における営農型太陽 光発電設備下の生育ステージ別環境調 査 ○高島 工 ¹ , 大関 崇 ¹ (1産業技術総 合研究所)	C02-02 予測モデルの出力が平均に偏 ることについて:メカニズムと影響 ○村上 貴一 ¹ (1農研機構北海道農業 研究センター)
11:00	OS4-07 農閑期排水がため池のメタン 放出量に与える影響 ○坂部 綾香 ¹ , 伊藤 雅之 ¹ , 尾坂 兼 一 ² , 小杉 緑子 ¹ (1京都大学, ² 滋賀県 立大学)	B02-03 画像解析と数値シミュレー ションに基づいた北海道の防風林管理指 針の提案 ○山田 亜由子 ¹ , 岡田 啓嗣 ² (1Graduate School of Agriculture, Hokkaido University, ² Research Faculty of Agriculture, Hokkaido University)	C02-03 作物成長-窒素吸収モデルに 基づく秋播きコムギの窒素利用効率の 評価 ○鈴木 公大 ¹ , 平野 高司 ¹ , 伊川 浩 樹 ^{1,2} (1北海道大学農学院, ² 北海道農 業研究センター)
11:15	OS4-08 中・長期的な日射量不足とリ ンゴ樹の光合成・乾物生産ならびに果 実収量 ○伊藤 大雄 ¹ , 澤田 壮太 ² , Hassan Rakibul ¹ (1弘前大学農学生命科学部, ² 弘前大学大学院農学生命科学研究科)	B02-04 定期的な草刈りが都市内雑草 群落の蒸発散と暑熱緩和機能に与える 影響 ○岡田 創吾 ¹ , 植山 雅仁 ¹ , 辰己 昂 太郎 ¹ (1大阪公立大学)	C02-04 プロセスベース作物生育モデ ルと機械学習の融合 (1) コムギの 収量予測モデル ○中川 博視 ¹ , 下田 星児 ¹ , 吉田 ひ ろえ ¹ , 中園 江 ¹ , 島崎 由美 ¹ , 岡村 夏海 ¹ , 岸 茂樹 ¹ , 杉川 陽一 ² , 大橋 優二 ² (1農業・食品産業技術総合研究 機構, ² 北海道立総合研究機構)
11:30	OS4-09 森林群落内外の大気結合・分 離:異なる森林での観測 ○中井 太郎 ¹ , 檜山 哲哉 ² , 頼 彦任 ¹ , 小谷 亜由美 ² , 伊川 浩樹 ³ , 小林 秀 樹 ⁴ , 永野 博彦 ⁵ , 太田 岳史 ² , マキシ モフ トロフィム ⁶ (1国立台湾大学, ² 名古屋大学, ³ 北海道農業研究センタ ー, ⁴ 海洋研究開発機構, ⁵ 新潟大学, ⁶ 寒 冷圏生物問題研究所)		C02-05 プロセスベース作物生育モデ ルと機械学習の融合(2)収量ギャップ 解析による輪作体系改善への示唆 ○下田 星児 ¹ , 岩崎 千沙 ² , 吉村 元 博 ¹ , 長崎 裕一 ¹ , 中村 春貴 ¹ , 吉田 ひろえ ⁴ , 中園 江 ⁴ , 島崎 由美 ⁴ , 岡村 夏海 ⁴ , 杉川 陽一 ⁵ , 大橋 優二 ¹ , 中川 博視 ³ (1農研機構北農研, ² 農研機構農 環研, ³ 農研機構農情研, ⁴ 農研機構中農 研, ⁵ 道総研)
11:45	OS4-10 風洞実験による超音波風速計 の補正式がフラックス算出値に及ぼす 影響について 清水 貴範 ¹ , ○中井 太郎 ² (1Forest Research and Management Organization, Forestry and Forest Products Research Institute, ² National Taiwan University)		

3月17日(火)午後 PM, 17 March			
	会場A Room A	会場B Room B	会場C Room C
13:15	座長 野村 浩一 (高知大学)	Chairperson: Keach Murakami (HARC, NARO)	座長 金谷 真希 (農研機構東北農研)
	A03-01 植物重量計測によるトマト水分ストレスの非破壊評価 ○大石 直記 ^{1,2} , 二俣 翔 ¹ , 大澤 政敏 ³ (1静岡県農林技術研究所, 2静岡大学創造科学大学院, 3山本電機株)	B03-01 Vertical Profile of Water Uptake in Longan Trees under a Ridge and Furrow System ○Shunta Kimura ^{1,2} , Hirokazu Higuchi ¹ , Tomohiro Kondo ¹ , Watcharra Chintakovid ² , Aussanee Pichakum ² (1Kyoto University, 2Mahidol University)	C03-01 北海道における寒地型イネ科牧草の越冬リスク解明のための標準化収量偏差を用いたアプローチ ○中村 直樹 ¹ , 下田 星児 ² (1道総研酪農試験場, 2農研機構北海道農業研究センター)
13:30	A03-02 氷冷熱型貯蔵庫における冬期の貯蔵環境の検証 ○加田 有記 ¹ , 木村 賢人 ¹ , 中島 直久 ¹ , 宗岡 寿美 ¹ (1帯広畜産大学)	B03-02 Nocturnal stomatal conductance in rice and its representation by daytime models ○Yutaka Tsutsumi-Morita ¹ , Mihretie Asargew ^{1,2} , Kazuhiko Kobayashi ^{1,3} , Mitsuko Aono ^{1,4} , Yuji Masutomi ¹ (1National Institute for Environmental Studies, Japan, 2University of Nebraska Lincoln, 3The University of Tokyo, 4Mukogawa Women's University)	C03-02 南西諸島各地のサトウキビ単収変動要因の解明を目的とした長期気象データ解析 ○渡邊 健太 ¹ (1摂南大学農学部)
13:45	A03-03 ダクト式パッド&ファン併用自然換気温室における高温期のホレソウ連続栽培の生育評価 ○嶋津 光鑑 ¹ , 須崎 詩野 ¹ , 矢島 有貴 ² (1岐阜大学応用生物科学部, 2岐阜大学大学院自然科学技術研究科)	B03-03 Associations Between Cold Hardiness and Photosynthetic Capacity in Subtropical and Temperate Citrus ○Nanami Higa ¹ , Shigehiro Kubota ² , Gaku Yokoyama ² , Daisuke Yasutake ² , Tomoyoshi Hirota ² (1Graduate School of Bioresource and Bioenvironment Sciences, Kyushu University, 2Faculty of Agriculture, Kyushu University)	C03-03 千葉県における日本なしの収量に影響を及ぼす気象要因と重要時期の特定 ○仲森 良樹 ¹ , 高橋 朝也 ² , 櫻井 玄 ³ , 横沢 正幸 ¹ (1早稲田大学, 2九州大学, 3農業・食品産業技術総合研究機構・農業環境研究部門)
14:00	A03-04 光植物学研究用LED人工太陽光源システムの大型化 ○Lee Hunjae ¹ , 松田 怜 ¹ , 谷野 章 ² , 富士原 和宏 ¹ (1東京大学大学院農学生命科学研究科, 2島根大学学術研究院環境システム科学系)	B03-04 Comparisons of stomatal conductance and canopy temperature between different rice cultivars ○Hiroki Oue ¹ , Doki Wardiman ² , Baoshan Zhao ² , Asyief Budiman ² , Ryotatsu Ohshima ³ , Satoshi Minakuchi ³ (1Graduate School of Agriculture, Ehime University, 2The United Graduate School of Agricultural Sciences, Ehime University, 3愛媛県農林水産研究所)	C03-04 京都府オリジナル酒造原料米品種における気象と蒸米酵素消化性の関係 ○一箭 翼 ¹ , 戸田 悠介 ² , 伏見醸友会酒米研究委員会, 黄桜 株式会社, 長谷川 利拡 ² (1京都府農林水産技術センター丹後農業研究所, 2農研機構農業環境研究部門)
14:15			

3月17日(火)午後 PM, 17 March			
	会場A Room A	会場B Room B	会場C Room C
14:30	OS-5 GHG緩和の新たな シーズと展開:メカニズム解明から コベネフィット・トレードオフまで	OS-2 気候変動に頑健な 農業生産に向けた農業気象学の貢献	座長 大橋 雄太 (農研機構農工研)
	OS5-01 温暖化が水稻の収量・外観品 質に及ぼす影響と土壌有機物管理によ る緩和効果:地域連絡試験の解析 ○長谷川 利拡 ¹ , 西田 瑞彦 ² , 関矢 博幸 ³ , 平内 央紀 ^{4,6} , 戸上 和樹 ³ , 高 本 慧 ³ , 高橋 智紀 ³ , 大塚 紀夫 ^{5,7} , 松 本 和大 ^{5,8} , 福田 敬 ^{5,9} , 國枝 栄二 ⁵ (1 農研機構農業環境研究部門, 2 東北大学 大学院農学研究科, 3 農研機構東北農業 研究センター, 4 農研機構中日本農業研 究センター, 5 佐賀県農業試験研究セン ター, 6 現:農林水産省農林水産技術会 議事務局, 7 現:退職, 8 現:佐賀県杵藤農 林事務所, 9 現:佐賀県農業大学校)	OS2-01 世界気象研究計画 (WWRP) 農業および環境分野にお ける季節予測の応用 (SAGE) プロジ ェクトの紹介 ○高谷 祐平 ¹ , ウルノウ ステイーブ ン ² , マルケジーニ ビクター ³ , オスマ ン マリソル ⁴ , 増富 祐司 ⁵ (1 気象研 究所, 2 University of Reading, 3 Centro Nacional de Monitoramento e Alertas de Desastres Naturais (Cemaden), 4 University of Buenos Aires, 5 国立環 境研究所)	C04-01 変動光環境における強光の持 続時間が葉の解剖学的・化学的特性と 光合成能力に及ぼす影響 ○高橋 朝也 ¹ , 安武 大輔 ^{1,2} , 日高 功 太 ³ , 野村 浩一 ² , 小野 信太郎 ³ , 中井 鴻美 ⁴ , 久保田 滋裕 ¹ , 横山 岳 ¹ , 廣田 知良 ¹ (1 九州大学, 2 高知大学, 3 農研機 構九州沖縄農業研究センター, 4 福島国 際研究教育機構)
14:45	OS5-02 水田の長期中干しによる水生 生物への影響とその緩和策 ○渡部 恵司 ¹ , 大久保 悟 ¹ , 井上 賢 哉 ¹ (1 農研機構)	OS2-02 季節予報を用いた、穀物を対 象とするグローバルな収穫前収量予測 の開始 ○飯泉 仁之直 ¹ , Yonghee Shin ² (1 農 研機構, 2 APEC Climate Center)	C04-02 営農オンサイトでの転流動態 の可視化にむけて—メロン果柄内の師 管流・道管流の動的評価— ○北野 雅治 ¹ , 但田 育直 ¹ , 齊藤 雅 彦 ¹ , MSA Sutan ¹ , 野村 浩一 ¹ , 臧 博 捷 ² , 安武 大輔 ² , 岡安 崇史 ² , 三好 悠太 ³ , 中井 鴻美 ⁴ , 野々下 萌 ⁵ , 宮本 史也 ⁵ , 尾崎 剛教 ⁵ (1 高知大学, 2 九州 大学, 3 量子研, 4 F-REI, 5 (株) welzo)
15:00	OS5-03 アジアモンスーン地域におけ る間断灌漑による水稻増収とメタン削 減 ○南川 和則 ¹ , 宇野 健一 ¹ , 高井 俊 之 ¹ , 辻本 泰弘 ¹ (1 国際農林水産業研 究センター)	OS2-03 全球作物収量予報・観測シス テム Crop.Monicast の開発 ○増富 祐司 ¹ , 飯泉 仁之直 ² , 滝本 貴弘 ² , 金 元植 ² , 高谷 祐平 ³ , 仲江川 敏之 ³ , 吉兼 隆生 ⁴ , 石崎 紀子 ¹ (1 国 立環境研究所, 2 農業・食品産業技術総 合研究機構, 3 気象研究所, 4 東京大学)	C04-03 キャベツの高温対策に求めら れる2つの水分生理特性 ○小沢 聖 ¹ , 鈴木 健二 (1 明治大学)
15:15	OS5-04 ペースト肥料2層施肥と尿素 全層施肥が水田からのCH ₄ ・N ₂ O排 出に及ぼす植生有無の影響 ○程 為国 ¹ , Hamdhanie Fikri ¹ , Prakosa Prakosa ¹ , 須藤 重人 ² , 松波 寿典 ³ (1 山形大学農学部, 2 農研機構農 業環境研究部門, 3 農研機構東北農研セ ンター)	OS2-04 大規模言語モデルによる農学 系論文からの栽培地情報の自動抽出: 作物データセットの改良に向けて ○小野 洋平 ¹ , 橋本 菜乃 ² (1 聖路加 国際大学大学院公衆衛生学研究科, 2 聖 路加国際大学大学院公衆衛生学研究科 (修士課程))	C04-04 敵北面定植によるキャベツの 高温対策の実証 小沢 聖 ¹ , ○鈴木 健二 (1 Meiji university)
15:30	OS5-05 グリーンウォッシュ防止に資す るプロセスモデル DRACO: 観測機器 盗難に強いGHG排出量算定方法 ○半藤 逸樹 ¹ , 酒井 理衣 ¹ , 小林 健 史 ¹ , 栗生田 忠雄 ² , 大西 健夫 ³ (1 サ グリ株式会社, 2 新潟大学, 3 岐阜大学)	OS2-05 高温耐性品種のパラメータ化 と過去の収量変動 ○吉田 龍平 ¹ , 石郷岡 康史 ² , 坂田 雅正 ³ , 長谷川 利拡 ² , 西森 基貴 ² (1 福島大学, 2 農研機構農環研, 3 高知県農 業研究センター)	座長 藤内 直道 (愛媛大学)
16:00	OS2-06 収穫時の降水量がキャベツの 入荷量に与える影響 ○滝本 貴弘 ¹ , 飯泉 仁之直 ¹ , 小野 洋平 ² (1 農研機構, 2 聖路加国際大学)	C05-01 チャにおける高温障害発生機 構の考察 ○工藤 健 ^{1,2} , 吉田 真紀 ¹ , 高橋 淳 ¹ , 伴 琢也 ³ (1 埼玉県茶業研究所, 2 東京 農工大学大学院連合農学研究科, 3 東京 農工大学)	C05-02 作物状態に対する環境の作用 を考慮したトマトの収量予測モデルの 開発 ○中村 優希 ¹ , 南 真佐雄 ¹ , 岩尾 忠 重 ¹ (1 Kochi University)
16:15		C05-03 森林群落における個体成長は 平均場モデルでどこまで推定できるか ○中山 隆義 ¹ , 高橋 朝也 ² , 横沢 正 幸 ³ (1 早稲田大学人間科学部, 2 九州大 学大学院生物資源環境科学府, 3 早稲田 大学人間科学学術院)	

3月18日(水) 午前 AM, 18 March			
	会場A Room A	会場B Room B	会場C Room C
9:00	OS-1 対流圏オゾンと植物の相互作用に多角的にせまる	座長 佐々木 華織 (農研機構農環研)	座長 内藤 裕貴 (東京大学)
	OS1-01 Protecting plants from ozone damage: An overview of current status ○Agathokleous Evgenios ¹ (1Nanjing University of Information Science and Technology)	B06-01 深層学習を用いた日最低気温予測: 山形県果樹園地を例として 児島 功洋 ^{1,2} , ○梶野 瑞王 ^{2,1} , 奥野 貴士 ³ , 黄瀬 佳之 ⁴ (1筑波大学, 2気象庁気象研究所, 3山形大学, 4山梨大学)	C06-01 日本海の海洋資源の商用化がもたらす農業・医療分野への経済効果: 産業連関表を用いた試算 ○小野 洋平 ¹ (1聖路加国際大学大学院公衆衛生学研究科)
9:15	OS1-02 Characteristics of the rhizosphere of trees controlled by ground-level Ozone ○小池 孝良 ¹ , 玉井 裕 ¹ , 渡部 敏裕 ¹ (1Research Faculty of Agriculture, Hokkaido University)	B06-02 局地風笹子おろし・碓氷おろしの気象資源としての有効利用 ○真木 太一 ¹ (1九州大学名誉教授)	C06-02 作物群落 3D モデルを用いた生理生態空間分布の可視化 ○但田 育直 ¹ , 野村 浩一 ¹ , 齊藤 雅彦 ¹ , 西口 修司 ¹ , 南 真佐雄 ¹ , 堀越 瑞貴 ¹ , 山崎 富弘 ¹ , 岩尾 忠重 ¹ , 北野 雅治 ¹ (1高知大学 IoP 共創センター)
9:30	OS1-03 Long-Term Observation of Ozone Flux in Evergreen Coniferous Forest and the Ratio of Stomatal Ozone Uptake ○和田 龍一 ¹ , 深山 貴文 ² , 小南 裕志 ² , 高梨 聡 ² , 堅田 元喜 ³ , 植山 雅仁 ⁴ , 谷 晃 ⁵ , 米村 正一郎 ⁶ , 高木 健太郎 ⁷ , 松見 豊 ⁸ , 梶野 瑞王 ⁹ , 中野 隆志 ¹⁰ , 高橋 善幸 ¹¹ , 渡辺 誠 ¹² , 山口 真弘 ¹³ , 黄瀬 佳之 ¹⁴ , 伊豆田 猛 ¹² (1Teikyo University of Science, 2Forestry and Forest Products Research Institute, 3Canon Institute for Global Studies, 4Osaka Metropolitan University, 5University of Shizuoka, 6Prefectural University of Hiroshima, 7Hokkaido University, 8Nagoya University, 9Meteorological Research Institute, 10Mount Fuji Research Institute, 11National Institute for Environmental Studies, 12Tokyo University of Agriculture and Technology, 13Nagasaki University, 14University of Yamanashi)	B06-03 茨城県で吹く筑波ならいと筑波おろしの局地風の気象特性 ○真木 太一 ¹ (1九州大学名誉教授)	C06-03 衛星データを用いたデジタル土壌マッピングによる農地 SOC の空間分布推定 ○ヤノ トモコエリザベス ¹ , Habibi Luthfan Nur ¹ , 若林 慶太 ¹ , 小林 健史 ¹ , 田中 貴 ¹ (1Sagri Co., Ltd)
9:45		B06-04 ヤマセに伴って吹く局地風「生保内だし」の経路 ○工藤 達貴 ¹ , 日下 博幸 ² (1筑波大学大学院, 2筑波大学計算科学研究センター)	C06-04 NeRF による 3D 再構成と点群セグメンテーションによるデントコーン地上部構造データの取得 ○加藤 康生 ¹ , 池谷 太輝 ² , 中島 大賢 ¹ , 勝野 凌世 ¹ , 森垣 拓巳 ¹ , 松村 悠生 ¹ , 岡田 啓嗣 ¹ (1北大院農, 2北大農)
10:00		B06-05 2025年9月5日に静岡県牧之原市から榛原群吉田町にかけて発生した突風による農業被害 ○上田 啓瑚 ^{1,2} , 横山 仁 ¹ , 下瀬 健一 ¹ , 加藤 亮平 ¹ , 前坂 剛 ¹ (1防災科学技術研究所, 2筑波大学)	C06-05 衛星データを用いた土壌乾燥度指数の適用性評価と新たな乾燥度指数の提案 ○水野谷 諒 ¹ , 松島 大 ¹ , Ulgiichimeg Ganzorig ² (1Chiba Institute of Technology, 2Institute of Geography and Geocology, Mongolian Academy of Sciences)
10:15			

3月18日(水) 午前 AM, 18 March			
	会場A Room A	会場B Room B	会場C Room C
10:30	OS-1 対流圏オゾンと植物の相互作用に多角的にせまる	Chairpersion: Hirohiko Nagano (Niigata University)	座長 地子 智浩 (電力中央研究所)
	OS1-04 Interannual change in the ozone flux according with a forest development in northern Hokkaido ○高木 健太郎 ¹ , 高橋 善幸 ² , 平田 竜一 ² (¹ Field Science for Northern Biosphere, Hokkaido University, ² National Institute for Environmental Studies, JAPAN)	B07-01 Effects of incubation temperature on nitrogen mineralization of paste fertilizer in two soil types ○Sayid Ali Mohamed ¹ , Yin Tianyun ² , Tawaraya Keitaro ² , Cheng Weiguo ² (¹ Graduate school of Agriculture, Yamagata University, Tsuruoka, Japan, ² Faculty of Agriculture, Yamagata University Tsuruoka, Japan)	C07-01 スマートフォン画像による果実数分布の推定—トマト圃場における統計的アプローチ— ○谷田部 篤生 ¹ , 南 真佐雄 ¹ , 岩尾 忠重 ¹ (¹ Kochi University)
10:45	OS1-05 Effects of ozone on terpene emissions and growth in forest trees ○増井 昇 ¹ , 小池 孝良 ² , 谷 晃 ¹ (¹ 静岡県立大学, ² 北海道大学農学研究院)	B07-02 Temperature and light interactions during autumn ratoon rice regrowth and their effects on summer rice productivity under organic management ○ATANA ELIE DESIRE ^{1,2} , Tawaraya Keitaro ¹ , Cheng Weiguo ¹ (¹ The United Graduate School of Agricultural Sciences, Iwate University, Morioka, Japan, ² Ministry of Agriculture and Rural Development, Cameroon)	C07-02 樹形の異なるカンキツ'不知火'における葉面積指数の推定 ○矢野 拓 ¹ , 田邊 秀和 ¹ , 二俣 翔 ² , 大石 直記 ² (¹ 大分県, ² 静岡県)
	OS1-06 Comparison of stomatal ozone uptakes in leaves of <i>Zelkova serrata</i> grown under different climate conditions ○渡辺 誠 ¹ , 久染 結羽 ¹ , 田中 亮志 ¹ , Elena Marra ² , 星加 康智 ² , Elena Paoletti ² , 伊豆田 猛 ¹ (¹ 東京農工大学, ² Institute of Research on Terrestrial Ecosystems (IRET), National Research Council of Italy (CNR))	B07-03 Spatial analysis of the ageing of Japan's Agricultural Workforce ○Kohei Imamura ¹ , Gen Sakurai ¹ , Kazuho Funakawa ¹ , Mizuki Morishita ¹ , Shoji Taniguchi ¹ , Takashi Nagai ¹ , Toshihiro Sakamoto ¹ (¹ 農業・食品産業技術総合研究機構)	C07-03 ボクセル点密度モデルを用いた垂直樹冠プロファイルに対する Sentinel-2 反射率の感度評価 ○藤原 匠 ¹ , 内藤 裕貴 ² , 細井 文樹 ² (¹ 防衛大学校, ² 東京大学)
11:00	OS1-07 Growth and photosynthetic responses to O ₃ of Japanese beech (<i>Fagus crenata</i>) seedlings grown under elevated CO ₂ and soil N supply ○山口 真弘 ¹ , 黄瀬 佳之 ² , 渡辺 誠 ³ , 伊豆田 猛 ³ (¹ Nagasaki University, ² University of Yamanashi, ³ Tokyo University of Agriculture and Technology)	B07-04 Comparison of Two Methods to Obtain Greenhouse Photosynthetic Rate Based on Single-Leaf Response Models and Greenhouse-Scale Measurements ○Achmad Fadillah ¹ , Naomichi Fujiuchi ¹ , Yuri Isoyama ² , Yoshinari Oba ² , Taufiq Yuliawan ² , Hikaru Fujita ² , Kotaro Takayama ^{1,3} (¹ Department of Food Production Science, Graduate School of Agriculture, Ehime University, Ehime, Japan, ² Research Center for Agrotechnology and Biotechnology, Toyohashi University of Technology, Japan, ³ Department of Mechanical Engineering, Toyohashi University of Technology, Japan)	
11:15	OS1-08 A numerical study on plant ozone injury mechanisms based on uptake and detoxification modeling ○黄瀬 佳之 ¹ (¹ 山梨大学)		
11:30			

3月19日(木) 午前 AM, 19 March			
	会場A Room A	会場B Room B	会場C Room C
9:30	OS-3 施設園芸の持続可能性と園芸工学	座長 竹内 真里 (農研機構西日本農研)	座長 坂部 綾香 (京都大学)
9:45	OS3-01 施設園芸におけるカーボン排出削減に向けた技術開発 ○彦坂晶子 ¹ , 佐野恵也 ¹ , 吉田英生 ¹ , 後藤英司 ¹ (1千葉大学園芸学研究院)	B08-01 異常気象・都市構造・健康リスクの関連を極値統計学から考える: 公衆衛生からの試み ○小野 洋平 ¹ , 橋本 菜乃 ² (1聖路加国際大学大学院公衆衛生学研究科, 2聖路加国際大学大学院公衆衛生学研究科(修士課程))	C08-01 InSAR 観測による泥炭湿原表面高変動の地下水位応答とかく乱の影響 ○町村 尚 ¹ , 章 浩東 ¹ , 杉田 暁 ² , 露崎 史朗 ³ , ホーテス シュテファン ⁴ , 林 希一郎 ⁵ (1大阪大学, 2中部大学, 3北海道大学, 4中央大学, 5名古屋大学)
	OS3-02 施設園芸のグリーン化に貢献する資源循環技術 ○遠藤 良輔 ¹ (1大阪公立大学大学院農学研究科)	B08-02 温度、気温と水蒸気圧を指標とする薄層土壌の質量の季節変化 ○鈴木 純 ¹ , 黒田 拓仙 ¹ (1Faculty of Agriculture, SHINSHU University)	C08-02 2025年夏季における圃場観測における気温データと近隣アメダスおよびメッシュデータとの比較 ○白井 靖浩 ¹ , 児玉 龍彦 ² , 川良 将一朗 ³ , 鶴田 純子 ⁴ , 金城 彩夏 ⁵ , 松本理央 ⁶ , 薬師寺 亜紀 ⁷ , 柿沼 宏明 ⁸ , 高橋 優太 ⁹ , 杉山 洋行 ¹⁰ (1農研機構 日本農業研究センター, 2佐賀県果樹試験場, 3長崎県農林技術開発センター, 4熊本県農業研究センター果樹研究所, 5宮崎県総合農業試験場, 6福岡県農林業総合試験場, 7大分県農林水産研究指導センター農業研究部果樹グループ, 8群馬県農業技術センター, 9栃木県農業総合研究センター, 10富山県農林水産総合技術センター園芸研究部果樹研究センター)
10:00		B08-03 土壌の水・熱移動の連成解析による都市域のオープンスペースが有する暑熱環境改善機能の評価 ○木口 翔己 ¹ , 高山 成 ² , 渡邊 充 ² (1大阪工業大学工学研究科, 2大阪工業大学環境工学科)	C08-03 渦相関法によるCH ₄ ・C ₂ H ₆ フラックスの同時観測に基づく都市域メタン排出の起源分離 ○植山 雅仁 ¹ , 中岡 暉 ⁴ , 梅澤 拓 ^{2,3} , 寺尾 有希夫 ² (1大阪公立大学, 2国立環境研究所, 3東北大学, 4大阪府立大学)
10:15		B08-04 季節アンサンブル予報の農業利用に向けた検討—地域別、季節別精度の検証— ○佐々木 華織 ¹ , 大野 宏之 ¹ (1NARO)	C08-04 部分除湿渦相関法による春季カナダ・ケンブリッジベイにおける大気—海氷間CO ₂ フラックスの定量化 ○能城 太一 ¹ , 野村 大樹 ² , 小野 圭介 ³ , 近藤 文義 ⁴ , Else Brent ⁵ , 吉村 将希 ¹ , 伊川 浩樹 ⁶ (1北海道大学大学院水産科学院, 2北海道大学大学院水産科学研究院, 3農業・食品産業技術総合研究機構, 4海上保安大学校, 5カルガリー大学, 6国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター)
10:30			

3月19日(木) 午前 AM, 19 March			
	会場A Room A	会場B Room B	会場C Room C
10:45	OS-3 施設園芸の持続可能性と園芸工学	座長 木村 建介 (農研機構農環研)	座長 増井 昇 (静岡県立大学)
	OS3-03 施設園芸の持続可能性を支える 情報化技術の実証研究 ○内藤 裕貴 ¹ (¹ 東京大学)	B09-01 テンサイ直播における1ヶ月 アンサンブル GPV を用いた気象リス クの検出 ○根本 学 ¹ (¹ Hokkaido Agricultural Research Center, NARO)	C09-01 サトウキビおよびエリアンサ スにおける個葉ガス交換の日変化の比 較 河合 寛人 ² , ○寶川 拓生 ¹ , 松田 大 志 ¹ , 樋口 浩和 ² (¹ JIRCAS, TARF, ² 京都大学大学院農学研究科)
11:00		B09-02 メッシュ農業気象データを用 いた高空間解像度の消雪日予測 ○楊 逸群 ¹ , 岡田 啓嗣 ² (¹ 北海道大 学大学院農学院, ² 北海道大学農学研究 院)	C09-02 浅い富栄養湖における表層正 味生産と湖-大気間の二酸化炭素交換 の長期変動 ○奥西 亮介 ¹ , 岩田 拓記 ¹ , 宮原 裕 一 ¹ (¹ 信州大学)
11:15		B09-03 気象データと衛星情報を統合 した再帰型ニューラルネットワーク (RNN) による圃場単位の小麦収量推 定 ○岩崎 千沙 ¹ , 杉浦 綾 ² , 石原 光則 ³ , 下田 星児 ⁴ (¹ 農研機構農業環境研究 部門, ² 農研機構本部, ³ 農研機構農業情 報研究センター, ⁴ 農研機構北海道農業 研究センター)	C09-03 林冠上の一高度での気温・湿 度・CO ₂ 濃度変動に基づく各フラック スの推定 ○田中 康資 ¹ , 清澤 秀樹(¹ 中部大学 第一高等学校)
11:30		B09-04 気候変動影響の将来予測にお ける機械学習の手法の不安定性 ○櫻井 玄 ¹ (¹ 農研機構)	C09-04 間伐が中部日本のカラマツ林 の炭素収支に与える影響 ○平田 竜一 ¹ , 高橋 善幸 ¹ , 井手 玲 子 ¹ (¹ 国立環境研究所)
11:45			

ポスター発表リスト Poster presentation list

■ 一般研究発表 General research presentations

ポスター番号の2文字目は、会場の部屋番号を表します。

ポスター番号に付与されたアスタリスク (*) は優秀ポスター賞の対象であることを表します。

番号が奇数のポスターの発表時間は 15:30-16:30、偶数のポスターの発表時間は 16:30-17:30 です。

The second character of the poster number indicates the room number. Asterisks attached to poster numbers indicate that the posters are eligible for the Young Scientist Poster Award. Poster presentations with odd numbers are scheduled for 15:30-16:30, while those with even numbers are scheduled for 16:30-17:30.

PA-001	地域特性データに基づく作物生育長期予測についての一考察 ○河野 海 ¹ , 徳永 大典 ¹ , 河田 博昭 ¹ (1NTT Space Environment and Energy Laboratories)
PA-002*	ヒノキ壮齢林における過去 20 年間の炭素収支とその変動要因の解明 ○佐藤 薫 ¹ , 小杉 緑子 ¹ , 坂部 綾香 ¹ , 鳥山 淳平 ² (1 京都大学大学院農学研究科, 2 森林研究・整備機構森林総合研究所)
PA-003	作物統計によるダイズ単収と生育ステージ別気象要因の関係解析 ○中野 聡史 ¹ , 小林 創平 ² , 國光 洋二 ³ (1 農研機構中日本農業研究センター, 2 農研機構九州沖縄農業研究センター, 3 麗澤大学)
PA-004*	気象条件と栽培環境の差異が水稻食味に与える影響: 広域データによる定量的評価 ○大石 耕太郎 ¹ , 濱 侃 ² (1 千葉大学大学院園芸学研究科, 2 千葉大学大学院園芸学研究院)
PA-005*	機械学習とプロセスモデルの統合による飼料用トウモロコシの群落光合成および乾物収量推定 ○堀越 瑞貴 ^{1,2} , 廣田 和也 ² , 今 啓人 ³ , 中島 大賢 ⁴ , 横山 岳 ⁵ , 平野 高司 ⁴ , 北野 雅治 ¹ (1 高知大学 IoP 共創センター, 2 北海道大学大学院農学研究院, 3 道総研畜産試験場, 4 北海道大学大学院農学研究院, 5 九州大学大学院農学研究院)
PA-006	分光植生指数を用いたダイズの青立ち程度の評価 ○杉田 泰淳 ¹ , 山浦 寛子 ¹ , グェン テイン ¹ , 熊谷 悦史 ¹ (1 農業・食品産業技術総合研究機構)
PA-007	高温環境下におけるもみ殻くん炭施用の水稻栄養応答 ○金谷 真希 ¹ , 羽田野 麻理 ¹ (1 Tohoku Agricultural Research Center, NARO)
PA-008*	物体検出アルゴリズム YOLO を用いたアセロラ果樹の部分的情報に基づく収量推定 ○山中 湧斗 ¹ , 濱 侃 ² , 南川 舞 ³ , 原本 典明 ⁴ , 木村 空知 ⁴ , 戸井田 俊介 ⁶ , Cunha Sanchez da Fabio ⁵ , Pinto Carlos Francisco Alef ⁵ (1 千葉大学園芸学部園芸学科, 2 千葉大学大学院園芸学研究院, 3 千葉大学国際高等研究基幹, 4 (株)ニチレイフーズ, 5 NIAGRO LTDA, 6 千葉大学大学院園芸学研究科)
PA-009*	EC の違いがトマトの蒸散速度および光合成速度に及ぼす影響 ○田村 耕史 ¹ , 野村 浩一 ² , 齋藤 雅彦 ² , 小倉 也央子 ² (1 高知大学大学院, 2 高知大学 IoP 共創センター)
PA-010	京丹後におけるコシヒカリの生育特性および収量構成要素の経年変化 ~37 年作況試験が示す温暖化影響~ ○一箭 翼 ¹ , 戸田 悠介 ² , 長谷川 利拡 ² (1 京都府農林水産技術センター丹後, 2 農研機構農業環境研究部門)
PA-011	異なるイチゴ品種における葉面構造を考慮した光合成制限要因の定量的解析 ○小野 信太郎 ¹ , 日高 功太 ¹ , 壇 和弘 ¹ (1 農研機構九州研)
PA-012	気候変動下でチャの凍霜害リスクはどのように変化したのか? -鹿児島県における 1950-2024 年の長期傾向解析に基づく評価- ○岩井 雅裕 ¹ , 久保田 滋裕 ¹ , 横山 岳 ¹ , 安武 大輔 ¹ , 広田 知良 ¹ (1 九州大学)
PA-013	静岡県のワサビ栽培地におけるコナガ類 2 種の発生と植物選好性の評価 ○増井 昇 ¹ , 片井 祐介 ² , 谷 晃 ¹ (1 静岡県立大学, 2 静岡県農林技術研究所伊豆農業研究センター)
PA-014	東南アジアにおける土地利用変化, 火災, 泥炭分解からの二酸化炭素排出量の推定 ○白石 知弘 ¹ , 平田 竜一 ² , 林 真智 ² , 平野 高司 ³ (1 日本文理大学, 2 国立環境研究所, 3 北海道大学)
PA-015	気候変動による福島県内のイチヨウ黄葉日及びカエデ紅葉日の変化と将来予測 ○蛭田 真史 ¹ (1 Fukushima Prefectural Centre for Environmental Creation)
PA-016	温帯林におけるクロロフィル蛍光と個葉光合成測定を用いた林床植物の炭素固定機能の評価 ○両角 友喜 ¹ , 野田 響 ¹ , 加藤 知道 ² , 村岡 裕由 ³ , 高橋 善幸 ¹ (1 国立環境研究所, 2 北海道大学, 3 東京大学)
PA-017	福島県におけるナシマルカイガラムシの有効積算温度に基づく発生回数および発生時期の推定 ○藤田 剛輝 ¹ (1 Fukushima Agricultural Technology Center)
PA-018	GOSAT-2 観測による全球メタン収支推定 ○齊藤 誠 ¹ , 丹羽 洋介 ¹ , 吉田 幸生 ¹ , 佐伯 田鶴 ¹ , 八代 尚 ¹ , 松永 恒雄 ¹ (1 国立環境研究所)

PA-019*	降水パターンが土壌呼吸に及ぼす影響 —9年間の長期モニタリングによる検証— ○千葉 亮太 ¹ , 坂部 綾香 ¹ , 高橋 けんし ¹ , 小杉 緑子 ¹ (1 京都大学)
PA-020*	地球温暖化に伴う成東・東金食虫植物群落の湿地植物開花時期の変化の解析 ○寺嶋 千夏 ¹ , 能勢 正代 ³ , 岩瀬 政広 ³ , 内田 一生 ² , 矢崎 友嗣 ¹ (1 明治大学農学部, 2 明治大学大学院農学研究科, 3 成東・東金食虫植物を守る会)
PA-021	2100年までの日本域の水文干ばつのリスク評価 ○渡辺 泰士 ¹ , 佐藤 雄亮 ² , 荒川 隆 ³ , 新田 友子 ⁴ , 花崎 直太 ¹ , 塩竈 秀夫 ¹ , 横島 徳太 ¹ (1 国立環境研究所, 2 海洋研究開発機構, 3 株式会社 ClimTech, 4 中央大学)
PA-022	干ばつストレスが森林生態系の炭素交換ダイナミクスに与える影響: リカレンス定量化解析 ○横沢 正幸 ¹ , 谷口 ゆい ² (1 早稲田大学人間科学学術院, 2 早稲田大学人間科学部)
PA-023	水稲の初冬直播き栽培に対応可能な出芽日予測モデルの開発 木村 建介 ¹ , ○丸山 篤志 ¹ , 下野 裕之 ² (1 農研機構・農環研, 2 岩手大学・農学部)
PA-024*	浮葉植物ヒシの水中根と地中根における滲出物と形質特性: 水生植物の防御機構の解明 ○鈴木 和子 ¹ , 牧田 直樹 ¹ , 諏訪 竜之介 ¹ , 朴 虎東 ¹ , 宮原 裕一 ¹ , 岩田 拓記 ¹ (1 信州大学)
PA-025*	グラフニューラルネットワークを用いた衛星画像からの雲領域検出手法の開発 ○坂入 幹 ¹ , 石塚 帆名子 ¹ , 佐久間 一世 ¹ , 池谷 太輝 ² , 岡田 啓嗣 ¹ (1 北大院農, 2 北大農)
PA-026*	3D Gaussian Splatting による作物体 3D オブジェクトの取得とその利用 ○池谷 太輝 ¹ , 加藤 康生 ² , 岡田 啓嗣 ² (1 北大農, 2 北大院農)
PA-027	SAR 画像を用いた機械学習モデルによる水田の湛水状況予測 半藤 逸樹 ¹ , ○酒井 理衣 ¹ (1 R & D Division, Engineering Department, Sagri Co., Ltd.)
PA-028*	移動撮影によるトマト群落の LAI 分布推定に関する研究 ○鳥上 浩叶 ¹ , 荊木 康臣 ² , 原田 浩介 ³ (1 山口大学農学部, 2 山口大学大学院創成科学研究科, 3 山口県農林総合技術センター)
PA-029*	全天球カメラを用いたイチゴの開花数評価に関する研究—超解像処理の適用— ○清水 聡乃 ¹ , 植木 朋実 ² , 荊木 康臣 ¹ , 原田 浩介 ³ (1 山口大学大学院創成科学研究科, 2 鳥取大学大学院連合農学研究科, 3 山口県農林総合技術センター)
PA-030*	携帯端末画像を用いたアザミウマ個体数評価システムの構築 ○植木 朋実 ¹ , 川上 龍生 ² , 荊木 康臣 ² , 岩本 哲弥 ³ (1 鳥取大学大学院連合農学研究科, 2 山口大学大学院創成科学研究科, 3 山口県農林総合技術センター)
PB-001*	土壌水分に基づいた灌水方式の有効性評価—土壌物理性の異なる培地におけるホウレンソウの生育・生理応答— ○慶田 清志丸 ¹ , 野村 浩一 ¹ , 齋藤 雅彦 ¹ , 田村 耕史 ¹ (1 高知大学)
PB-002	イチゴ「恋みのり」の土耕栽培における地下部加温処理が枯れ果の発生に及ぼす影響 ○日高 功太 ¹ , 壇 和弘 ¹ , 田口 善勝 ¹ , 小野 信太郎 ¹ (1 農研機構九州沖縄農業研究センター)
PB-003*	遠赤色光の少ない照射光は植物個体群の均一性を低下させるが, 光源の空間配置がそれを改善する ○西村 有可里 ¹ , 渋谷 俊夫 ¹ , 遠藤 良輔 ¹ (1 大阪公立大学)
PB-004*	風速の変動周期がヒマワリ実生の成長および気孔コンダクタンスに及ぼす影響 ○下茂 寛治 ¹ , 渋谷 俊夫 ¹ , 遠藤 良輔 ¹ (1 大阪公立大学)
PB-005*	半閉鎖環境での換気速度が CO ₂ 濃度と飽差の変化を介してキュウリ実生の水利用効率に及ぼす影響 ○北野 太羅 ¹ , 渋谷 俊夫 ² , 遠藤 良輔 ² (1 大阪府立大学, 2 大阪公立大学)
PB-006*	育苗前半と後半の飽差条件がキュウリ実生の成長および気孔特性に及ぼす影響 ○福益 仁誠 ¹ , 渋谷 俊夫 ¹ , 遠藤 良輔 ¹ (1 大阪公立大学)
PB-007*	異なる夜温がコマツナの暗呼吸速度および非構造炭水化物濃度に与える影響 ○天野 陽斗 ¹ , 野村 浩一 ¹ , 小林 美智代 ¹ , 北野 雅治 ¹ (1 高知大学)
PB-008	冬季の無加温および培地加温が中玉トマトの収量に及ぼす影響 ○二俣 翔 ¹ , 大石 直記 ¹ (1 静岡農林技研)
PB-009	N・P・K の欠乏および過剰がホウレンソウの光合成・SPAD 値・成長の時系列変化に及ぼす影響 田中 結花 ¹ , ○野村 浩一 ¹ (1 Kochi University)
PB-010*	トマト循環式養液栽培における環境負荷低減法の確立 —養分吸収モデルパラメータの着果依存性— ○寶山 瑞貴 ¹ , 佐合 悠貴 ¹ (1 山口大学)
PB-011*	リーフレタスの生育を抑制する揮発性有機化合物 ○龜山 美咲 ¹ , ○山城 彩友音 ¹ , ニヤズ グリサナム ¹ , 増井 昇 ¹ , 嶋村 茂治 ¹ , 谷 晃 ¹ (1 静岡県立大学)
PB-012*	植物工場における多段階収穫栽培による生産効率の向上 ○江田 日和 ¹ , 荊木 康臣 ¹ (1 山口大学農学部)

PB-013	根鉢を透かして見る 一円筒表面パノラマの 3D 再構成による根系の透過像生成ー ○松嶋 卯月 ¹ , 大平 直也 ² , 伊藤 大介 ² , 齊藤 泰司 ² (¹ 岩手大学, ² 京都大学複合原子力科学研究所)
PB-014*	温度制御可能な自作チャンバーを用いた高温環境におけるイソプレン放出測定 ○杉本 章太 ¹ , 増井 昇 ¹ , 谷 晃 ¹ (¹ 静岡県立大学)
PB-015*	熱帯泥炭地における地表面温度の日変化と地下水位の関係 ○石井 裕太 ¹ , 平野 高司 ¹ (¹ 北海道大学農学部)
PB-016	畑作における先行降雨指数の参照日数と有効性評価 ○朱里 勇治 ¹ (¹ 北海道農業研究センター)
PB-017*	3D Gaussian Splatting によるアセロラ幼樹の三次元フェノタイプングと育種への実用性評価 ○戸井田 俊介 ¹ , 濱 侃 ² , 木村 蒼 ¹ , 南川 舞 ³ , 原本 典明 ⁴ , 木村 空知 ⁴ , 野村 哲也 ⁵ , 勘米良 祥多 ⁵ , 山本 雅史 ⁵ , 西澤 優 ⁵ (¹ 千葉大学大学院園芸学研究科, ² 千葉大学大学院園芸学研究院, ³ 千葉大学国際高等研究基幹, ⁴ 株式会社ニチレイフーズ, ⁵ 鹿児島大学農学部)
PB-018	根の音響放射 ○小沢 聖 ¹ , 蔭山 健介 ² , 深山 陽子 ³ (¹ 明治大学, ² 埼玉大学, ³ 福島大学)
PB-019*	Analyzing time lag between vegetative and reproductive growth in spring and winter cucumber crops ○Mako Shigenobu ¹ , Daisuke Yasutake ^{1,2} , Muneshi Mitsuoka ¹ , Takashi Okayasu ^{1,2} , Takenori Ozaki ³ , Masaharu Koga ³ , Shigehiro Kubota ¹ , Gaku Yokoyama ¹ , Tomoyoshi Hirota ¹ (¹ Kyushu University, ² Kochi University, ³ welzo Co. Ltd.)
PB-020	Assessment of Water Stress in Melon Using a Plant Wearable Transpiration Sensor ○Jun Tominaga ¹ , Ikuma Imai ¹ , Mayu Sakamoto ¹ (¹ Hiroshima University)
PB-021	Establishing a relaxed eddy accumulation system for biogenic organic compound flux in Central Taiwan ○Ting-Wei Chang ¹ (¹ National Taiwan University)
PB-022*	Air Temperature Estimation Using Geostationary Meteorological Satellite Data and Time-Series Deep Learning ○Hanako Ishizuka ^{1,2} , Motoki Sakairi ¹ , Keiji Okada ³ (¹ Graduate School of Agriculture, Hokkaido University, ² Central Agricultural Experiment Station, Hokkaido Research Organization, ³ Research Faculty of Agriculture, Hokkaido University)
PB-023	Reproduction and evaluation of mosquito population fluctuations using a process model based on the relationship between microclimate and phenology in mixed agricultural-residential zones ○Kazuki Ueno ¹ , Shunji Ohta ¹ (¹ Faculty of Human Sciences, Waseda University)
PB-024*	Evaporation characteristics of <i>Sphagnum</i> moss cultivated on rooftops and in paddy fields under warm-temperate conditions in central Japan ○Yuuki Yamauchi ¹ , Hibiki Ishizuka ² , Ryo Furukawa ² , Haru Shiraishi ² , Tomotsugu Yazaki ² , Iain McTaggart ² (¹ Graduate School of Agriculture, Meiji University, ² School of Agriculture, Meiji University)
PB-025*	Effects of nitrogen application timing and splitting on the yield and quality of the bread wheat cultivar 'Minaminokaori' ○Xuping Ma ¹ , Midori Okami ¹ (¹ Naro)
PB-026	Bibliometric analysis of the impact of biochar on organic agriculture and climate change mitigation ○Kosuke Kato ¹ , Yoshihiro Uenishi ² (¹ Chiba University, ² Kyushu University)
PB-027*	Application of the WRF-SFIRE Model for Fire Spread Prediction in Tropical Peatlands in Indonesia ○Kei Katashima ¹ , Naru Takayama ³ , Segah Hendrik ² , Masahide Matsumoto ³ (¹ 大阪工業大学工学研究科, ² University of Palangka Raya, ³ 大阪工業大学環境工学科)
PB-028	Detection of Short-Term Topographic Changes in Coastal Sand Dunes Using UAV-LiDAR ○Jiaqi Liu ¹ , Jing Wu ² , Reiji Kimura ³ (¹ Institute of Environmental Systems Science, Shimane University, ² Graduate School of Sciences and Technology for Innovation, Yamaguchi University, ³ Arid Land Research Center, Tottori University)
PB-029	Improving Vegetation Cover Estimation in Drylands by combing Green and Senescent Vegetation Indices ○Jing Wu ¹ , Yasunori Kurosaki ² , Batdelger Gantsetseg ³ (¹ Graduate School of Sciences and Technology for Innovation, Yamaguchi University, ² Arid Land Research Center, Tottori University, ³ Information and Research Institute of Meteorology, Hydrology and Environment, Mongolia)
PC-001	気候変動下の獣害対策：汎用ドローンを用いたトウモロコシ圃場におけるクマ食害の時空間解析 ○石井 一夫 ¹ , 伍 潔玲 ¹ , ゴータム ビスヌ プラサド ¹ (¹ 公立諏訪東京理科大学)
PC-002	大規模経路検索エンジンを用いた熱中症への医療体制が脆弱な地域の可視化 小野 洋平 ¹ , ○橋本 菜乃 ² (¹ 聖路加国際大学大学院公衆衛生学研究科, ² 聖路加国際大学大学院公衆衛生学研究科(修士課程))
PC-003*	ボルネオ島の火災と降水量の関係 ○長谷川 侑輝 ¹ , 平野 高司 ¹ , 白石 知弘 ² (¹ Hokkaido University, ² 日本文理大学)

PC-004	直播てん菜風害発生条件の判別分析による判定 ○松島 大 ¹ , 石井 岳浩 ² , 根本 学 ³ (1千葉工業大学, 2北海道糖業株式会社, 3農研機構北海道農業研究センター)
PC-005	アンサンブル気候予測データを用いた森林風害リスクの評価 ○安田 幸生 ¹ (1森林総合研究所)
PC-006	農作物の気象災害被害のデータベース化とその活用 ○永井 孝志 ¹ , 田中 絵里 ¹ (1農研機構農業環境研究部門)
PC-007	気象庁「2週間気温予報」確率資料による夏季高温の情報発信 ○大久保 さゆり ¹ (1農研機構東北農業研究センター)
PC-008*	領域気象モデルを用いた農地熱環境の解析：関東平野における夏季気温の土地利用別の変化 ○渡邊 栞 ^{1,2} , 佐々木 華織 ² , 丸山 篤志 ² , 寺谷 諒 ² , 日下 博幸 ³ (1筑波大学, 2農研機構, 3筑波大学計算科学研究センター)
PC-009	霜注意報発表日における長野県小布施町の最低気温分布 ○浜田 崇 ¹ , 尾関 雅章 ¹ , 栗林 正俊 ¹ , 岡田 将誌 ² , 石崎 紀子 ² (1長野県環境保全研究所, 2国立環境研究所)
PC-010*	インドネシア・ディエン高原における冷気湖の発生特性とジャガイモ霜害の分布 ○金居 新大 ¹ , 岩田 薫 ¹ , 甲山 治 ² (1京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科, 2京都大学東南アジア地域研究研究所)
PC-011	氾濫歴を有する河川沿いの永久凍土中に埋設している有機物の分解性評価 ○永野 博彦 ¹ , Wang Ruixin ¹ , 岩花 剛 ² (1新潟大学, 2IARC/UAF)
PC-012	丘陵地梨園における夜間冷却の局所性と地形・気象要因の解析 ○水田 圭一 ¹ , 初鹿 宏壮 ¹ , 岡田 将誌 ² (1富山県環境科学センター, 2国立環境研究所)
PC-013*	冬季北海道における夜間地表面冷却量の地域特性と地形の関係 ○鈴木 翔互 ¹ , 渡辺 力 ² , 川島 正行 ² (1北海道大学大学院環境科学院, 2北海道大学低温科学研究所)
PC-014*	テンサイ直播栽培における畝形状が風速場に及ぼす影響の CFD シミュレーション ○勝野 凌世 ¹ , 岡田 啓嗣 ¹ (1北大院農)
PC-015*	ミズゴケ栽培現場からの CO ₂ 、CH ₄ 、N ₂ O の排出量の計測 ○古川 涼 ¹ , 山内 祐輝 ² , 矢崎 友嗣 ¹ (1明治大学農学部, 2明治大学大学院農学研究科)
PC-016*	諏訪湖上のフラックス観測に対する湖面に起因しない輸送の影響 ○廣本 陽色 ¹ , 岩田 拓記 ¹ (1信州大学)

■ 高校生ポスター研究発表 Poster presentations by high school students

発表は3/18（水）15:30–16:30、ポスター会場Cにて行われます。

PC-H01	シシトウの辛み発生条件の特定と辛みフリー栽培の確立 秋森芭月 ¹ , 福島梨央 ¹ (1茨城県立つくばサイエンス高等学校)
PC-H02	カンボジア農村地域における土壌改良に向けた堆肥の活用可能性 嵯峨悠月 ¹ , 渡辺絢葉 ¹ , 丸山美智 ¹ , 内田陽向 ¹ (1宮城県仙台二華高等学校)
PC-H03	天敵ダニを利用したイチゴ栽培におけるハダニ予察資材の効果検証 向田瑛春 ¹ , 松本蓮 ¹ , 皆川優衣 ¹ , 手塚謙太 ¹ , 加藤優月 ¹ (1栃木県立宇都宮白楊高等学校)
PC-H04	ゆずの里に未来はあるのか？気象データから考える観光資源の適性 西山優羽 ¹ , 今井翔太 ¹ , 星野莉久 ¹ (1栃木県立栃木農業高等学校)
PC-H05	栄養条件の違いが菌根菌と植物の共生関係に与える影響 青山璃空 ¹ , 太田雅康 ¹ , 岡崎有香 ¹ , 高橋蒼空 ¹ , 本田鈴 ¹ (1石川県立金沢二水高等学校)
PC-H06	相変化材料 (PCM) による地温安定化が植物生育に与える影響 古橋果歩 ¹ (1サレジアン国際学園高等学校)
PC-H07	トマト由来の真菌を利用した酵素による生分解性プラスチックの分解に関する研究 飯島日菜子 ¹ , 五十嵐菜々花 ¹ , 岩田美那 ¹ , 戸祭碧 ¹ (1茨城県立竜ヶ崎第一高等学校)
PC-H08	菊の灌水装置の製作 渡辺翔太 ¹ , 金澤一護 ¹ , 渡部翔貴 ¹ , 肥高一護 ¹ (1茨城県立 IT 未来高等学校)
PC-H09	タッチでランチ「給食をワクワクする体験・学びの機会に」 引田智珠 ¹ , 白幡芽生子 ¹ , 植田奈那 ¹ , 佐川光楓瑠 ¹ , 三輪聖人 ¹ , 若月健将 ¹ (1茨城県立太田第一高等学校)
PC-H10	アントシアニンを用いた海洋保全のための日焼け止め〜りんごの皮で海を救おう〜 伊藤かれん ¹ , 小林美葵 ¹ , 佐藤日香 ¹ , 引地愛 ¹ (1宮城県仙台第三高等学校)

発表における注意事項 Information for presenters

■ 口頭発表

(1) 割当時間

一般講演に関しては、全国大会・ISAM とともに1課題あたり15分間（交代時間を含む）が割り当てられています。発表時間は12分とし、残りの3分は質疑応答と交代の時間とします。10分経過時に1鈴、12分経過時に2鈴、15分経過時に3鈴を鳴らします。

オーガナイズドセッションの講演時間に関しては、オーガナイザーにご確認ください。

(2) 発表方法

発表は Microsoft PowerPoint や PDF などのスライドを液晶プロジェクタで映写して実施します。パソコンの付け替え、操作等は発表者が行なってください。なお、会場にはレーザーポインターを用意しています。

発表者ご自身で持参した PC での発表をお願いします。なお会場の液晶プロジェクタとの接続は HDMI に対応しています。他の接続端子には対応しておりませんので、必要に応じて変換端子を各自ご用意ください。講演前の休憩時間などに、発表資料が正しく投影されるか確認を行って下さい。セッション直前は混雑が予想されますので、余裕を持って会場へお越し下さい。また、不測の事態に備え、発表スライドを入れた USB メモリも準備されることを推奨します。

■ Oral presentation

(1) Duration of presentations

For general presentations, each speaker is allocated 15 minutes, including time for transitions. The presentation time is 12 minutes, followed by 3 minutes for questions and transition. The timekeeper will ring a bell to indicate elapsed time: one bell at 10 minutes, two bells at 12 minutes, and three bells at 15 minutes.

The presentation time for organized sessions may vary. Please consult the organizer for details.

(2) Presentation method

Presentations should be given using slides (Microsoft PowerPoint, PDF, etc.) projected via LCD projectors. Presenters are responsible for connecting and operating their own computers. Laser pointers will be available at the venue.

Please use **your own laptop** for the presentation. Please note that the projectors support **HDMI input**. If your computer does not have an HDMI port, please bring your own adapter. Before your session, please confirm that your slides are projected correctly during a break. As congestion is expected immediately before each session, please come to the room with sufficient time. As a precaution, presenters are also encouraged to bring a USB flash drive containing a backup copy of their presentation file.

■ ポスター発表

(1) ポスターの大きさ と 掲示方法

ポスターパネルは高さ 1800 mm・幅 900 mm ですので、A0 サイズ（高さ 1189 mm・幅 841 mm）のポスターの作成を推奨します。発表者はパネル上部に貼られた番号をご確認の上、該当するパネルにポスターを掲示してください。番号は当プログラムおよび講演要旨集に掲載されています。

ポスターの設置は 3 月 18 日（水）12:00 から行うことができます。画鋲はポスター会場にご用意します。若手優秀ポスター賞に応募した発表者は、審査を効率的に行うため、早めのポスター掲示にご協力をお願いいたします。

ポスターの撤去は 3 月 19 日（木）12:00 までをお願いします。この時刻以降に残っているポスターは事務局で処分しますのでご了承ください。

(2) ポスターセッション

ポスターセッションは 3 月 18 日（水）に 2 回に分けて行われます。

- セッション 1（番号が奇数のポスター） 15:30–16:30
- セッション 2（番号が偶数のポスター） 16:30–17:30

これらコアタイムの間、発表者はポスターの前に立って発表や質疑に対応してください。若手優秀ポスター賞に応募した発表者がコアタイムに不在の場合、審査対象から外れる場合がございますのでご注意ください。

■ Poster presentation

(1) Poster sizes and display instructions

The poster panels measure 1800 mm (height) × 900 mm (width). Therefore, we recommend preparing your poster in A0 portrait size (1189 mm × 841 mm). Presenters should confirm the panel number displayed at the top of the boards and place their posters on the corresponding panels. Poster numbers are listed in this program and in the abstract book on the website.

Posters may be mounted from 12:00 on 18 March. Thumbtacks will be provided in the poster venue. Presenters who have applied for the Young Scientist Poster Award are kindly requested to display their posters as early as possible to facilitate the review process.

Posters must be removed by 12:00 on 19 March. Please note that the secretariat will discard any posters remaining after this time.

(2) Poster session

The poster session will be held in two parts on 18 March:

- Session 1: 15:30–16:30 (odd-numbered posters)
- Session 2: 16:30–17:30 (even-numbered posters)

During your assigned core time, presenters are expected to stand by their posters to give explanations and answer questions. Please note that candidates for the Young Scientist Poster Award may be excluded from evaluation if they are absent during their core time.



Wi-Fi、LTE通信対応コンパクトデータロガー CR300シリーズ

CR300シリーズは、コストを抑えた測定システムに最適です。一般的な気象観測はこれ一台で対応します。CR300シリーズには、DC/DC充電用レギュレータが内蔵されています。



CR350



CR310

- ▶ **設計特性**：コンパクトで低コストのデータロガーで、USBポートが内蔵されています。0 ~ 20mA または 4 ~ 20mA のセンサーを直接測定できます。
- ▶ **用途**：村落給水、水産養殖、水質、水位、SCADA、気象観測装置等のコストを抑えた計測システムの構築や、小型ボディを生かしたコンパクトなシステムの構築が可能です。
- ▶ **モデル**：RS485通信搭載シリアル特化データロガーCR350およびイーサネットポート搭載データロガーのCR310。
- ▶ **オプション**：どちらのモデルにも、オンボード Wi-Fi(-WIFI)、LTE通信モデル (-CELL225) を選択いただけます。日本国技術基準適合証明を認証しております。

CR1000Xe データロガー

フラッグシップデータロガー CR1000Xe は、多種多様なアプリケーションの測定と制御を行います。外部電源（通常はBPALK、PS200、PS150）より電源供給し、CR1000KD 携帯型キーボードディスプレイが使用できます。

- ▶ **設計特性**：世界クラス的环境計測データロガー CR1000X は、最大1000Hz の計測速度、高い計測精度、最大24ビットの分解能を備えています。USB-Cポート、10/100baseTポート、microSDカードスロットを搭載しています。CS社製マルチプレクサ、SDM機器、CDM機器と互換性があるため、測定と制御を拡張することができます。また、多種多様なシリアル通信、イーサネットプロトコルに対応しており幅広いシステム設計が可能です。
- ▶ **用途**：火災気象、風プロファイリング、気象観測装置、大気品質、ETo/農業、土壌水分、水位、水産養殖、雪崩予測、TDR 測定、車両試験、SCADA、水質計測等センサーを組み合わせることによりあらゆる計測をサポートします。



4G データ通信ゲートウェイ CELL225



CELL225は日本国内仕様4G対応の産業用データ通信ゲートウェイです。計測サイトへ行かなくてもデータ回収、プログラムの送信、機器の設定などが可能です。データロガーとはシリアル、またはCS I/Oを利用して通信し、シリアルサーバー、シリアルクライアント、PPPホストとして使用できます。他のセルラーモデムと比べて低消費電流で、通信時でも39mA程度に収まります。商用電源の確保が難しい計測サイトにも適しています。ブラウザベースの設定ツールが内蔵されており、ブラウザ上から簡単に設定ができます。

- ▶ 低消費電力でソーラーパネルによる駆動も可能
- ▶ 設定、設置が容易
- ▶ 動的機構が無くメンテナンス性に優れる
- ▶ 現行データロガー、Edlogデータロガーに対応
- ▶ 4G LTE対応
- ▶ SIMカード以外の必要なものがすべて付属





キャンベル社は、大気質分散モデルで必要とされる顕熱、水蒸気および微量ガスフラックスの測定、大気変数などを含む微気象学アプリケーションのリサーチグレード計測器

を提供しています。また、さまざまな自動気象観測装置の設定も提供しています。

主なシステム

CPEC300

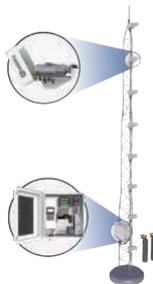
クローズドパス渦相関システム



	測定	データロガー	電力使用量	通信 / インターフェース
CPEC300 クローズドパス渦相関システム	二酸化炭素、水蒸気、熱、および運動量の表面 - 大気交換	CR6	ユーザー供給の 12 Vdc バッテリーとソーラーパネルまたは AC 電源	CF カード、シリアル、イーサネット、無線通信など
AP200 CO ₂ /H ₂ O 大気プロファイルシステム	最大 8 回の摂取から二酸化炭素 (CO ₂) および水蒸気 (H ₂ O) 濃度	CR1000X	ユーザー供給の 12 Vdc バッテリーとソーラーパネルまたは AC 電源	CF カード、シリアル、イーサネット、無線通信など

AP200

CO₂/H₂O 大気プロファイルシステム



カスタムシステム

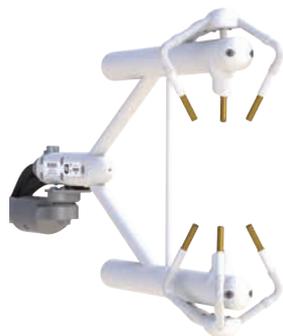
販売されているシステムの多くはカスタマイズされており、お客様のニーズに合ったシステムの構成をサポートします。

センサー

ガス分析計および音波風速計

▶ IRGASON 一体型 CO₂/H₂O オープンパスガスアナライザと 3D 音波風速計

▶ EC150 CO₂/H₂O オープンパスガス分析計および CSAT3A 3D音波風速計

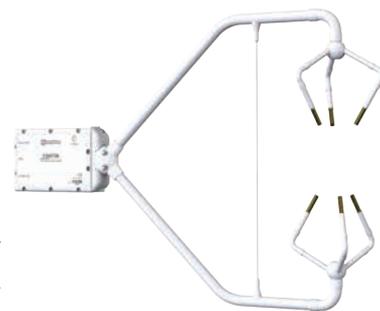


▶ EC155 CO₂/H₂O クローズドパスガス分析計システム

▶ TGA200A クローズドトレースガス分析計

▶ CSAT3A 3次元音波風速計

▶ CSAT3B 3次元音波風速計



more info:

www.campbellsci.com/gas-flux-turbulence



お問い合わせ先：キャンベル・サイエンティフィック・ジャパン株式会社

〒335-0015 埼玉県戸田市川岸3-2-5 / TEL : 048-400-5001 / FAX : 048-299-3666 / E-mail : jp-info@campbellsci.com

アカデミア発の IT・サイエンスコミュニケーターチームが、
農業・環境・防災などの研究現場に伴走します。

主な業務内容

- 専門的ウェブサイトの構築
- モバイルアプリ開発 (iOS, Android)
- 数理モデル・統計モデルの構築と改修
- リモートセンシング・GIS
- 画像認識・AI
- サーバの構築・保守
- 研究現場に特化したAI活用の導入と運用支援 
- 研究成果の可視化と発信 

主な受注例

- 日本土壌インベントリーシステムの開発と運用管理
- 土壌CO2吸収見える化サイトの構築と運用管理
- e土壌図II (iOS, Android)
- 果樹低温アプリ (2023年10大農業技術第1位) の構築と保守
- 田畑輪換土壌炭素動態解析モデル (Python版) 開発
- 土壌温度・水分・露地野菜生育予測等のWAGRI APIの開発
- 衛星データ (ALOS, LANDSAT) による土地利用分類
- 衛星画像自動処理システムの開発
- 各種温暖化シナリオデータ (CMIP6, d4PDF) の加工と解析
- ワークショップのグラフィックレコーディング
- 有機資材肥効見える化アプリ普及用チラシデザイン

科研費等申請用の御見積を無料で迅速に対応致します
気軽にご相談下さい



アカデミックエクスプレス株式会社

〒305-0047 茨城県つくば市千現2-1-6 C-A-18

<https://academic-express.com>

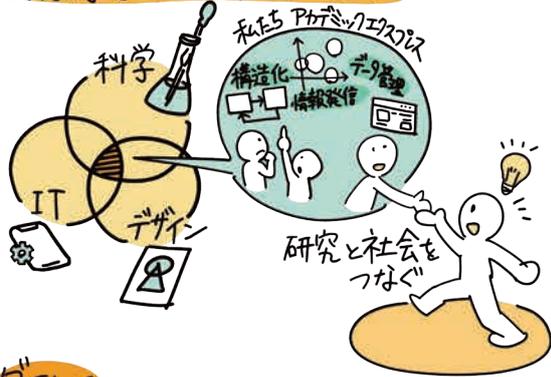
info@academic-express.com



グラレコで伝わる研究、広がる価値

サイエンスコミュニケーションの新しいかたち

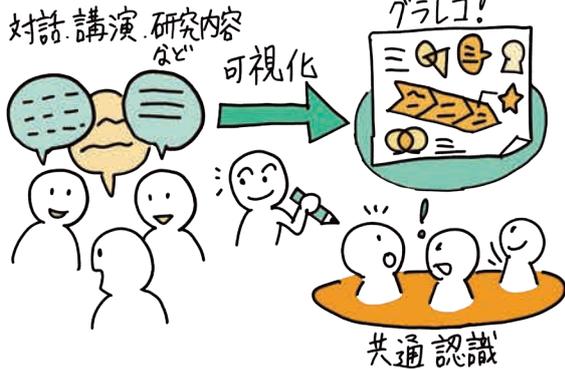
研究現場を支える専門チームです



拡張現実
グラレコ × AR
全体像 追加情報



グラレコ (グラフィックレコーディング) とは...



具体的な展開



なぜグラレコか?



サービスの流れ



グラフィックレコーダー

あきたら子

プロフィール

多摩美術大学 美術学部グラフィックデザイン学科卒 (2024年)
アカデミックエクスプレス株式会社 所属
北海道大学 CoSTEP 20期選科C 修了 (最優秀賞)
専門: グラフィックレコーディング、インフォグラフィック、図解制作

実績

『未来をデコる「50:50 ワークショップ」』グラレコ担当
(QST・北大 CoSTEP・核融合科学研究所 主催)
『サイエンスコミュニケーションの道具箱』図解コラム担当
(CoSTEP 20周年記念出版)

NEW データロガー

C-CR1000Xe/C-CR350



C-CR1000XeはC-CR1000Xの後継機で、プログラム可能な多チャンネルフィールド用データロガーの標準器です。CR350は多目的、低消費電力でコンパクトな計測・制御用データロガーです。

低消費電力のため無電源地域における長期計測が可能です。計測中でも通信が可能。外部機器が豊富で拡張性の高さが特徴です。

4成分放射収支計

CHF-NR01

HUKX JPN



CHF-NR01は、表面放射収支の4つの成分を別個に測定できます。センサー素子はサーモパイルを使用しており、入出力する短長波放射フラックスに比例して、微弱な4つの出力電圧を発生させます。大気温度と地表温度の計算のためにPt100温度センサーが赤外放射計に内蔵されています。

また、長波結露防止ヒーターと2軸の水準金具も含まれています。

土壌水分センサー・モニター

CACC-TDR315N

C-M1001



CACC-TDR315Nは真の誘電率を測定するTDR方式の土壌水分センサーです。センサーからTDR波形データを取得することもできます。地温、土壌ECも同時計測可能です。

C-M1001土壌水分モニターは、TDR315Nセンサを最大10本まで接続して、土壌水分を測定しモニター/記録します。

日射計フィルム オプトリーフ



日射計フィルム
OptoLeaf
オプトリーフ



オプトリーフは、積算日射量や積算光子量を測定するためのフィルムです。フィルムの色素が日射によって退色する度合いを求めて、その退色率から検量線によって積算日射量や積算光子量に換算します。

従来の日射計では測定困難であった場所や、同時多点での測定を可能にします。

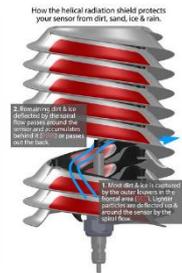
三球温度計

CT-TC-NK3-TT-T



通風シェルター無しで、気温計測が可能です。感温部のサイズが異なる3本の熱電対の出力値を利用し、放射の影響を理論的な計算によって取り除くことで、精度の高い測定を実現します。日射や風などの影響を受けやすい水田、畑地などの屋外での気温測定に適したセンサーです。

Helical太陽電池式強制通風 シェルター



温度伝導率の低い螺旋状の耐候プラスチック円盤で構成されています。螺旋形状なので空気の流通性が良く、また、水分や汚れが直接センサーに到達しません。それにより、正確な計測が長期にわたり可能になります。通風する事により日中の日射による温度上昇を最低限に留める事が出来ます。主に、無電源地域での温湿度の測定に用います。

ORP電極



土壌のORP計測が可能な電極です。連続して土壌のORPを計測するためには白金電極と比較電極をそれぞれ埋設し、電極間の電圧をデータロガーで計測します。数十本計測可能なシステムも構築可能です。

あらゆる環境を、数値に変える。

陸も海も空も、
多様なフィールドを見える化。



ABOUT クリマテックについて

国内外の多様な環境で、計測システムを一社完結で提供します。

クリマテックは、自然計測のシステムインテグレーターとして、国内外のあらゆる環境で計測システムの設計から設置・メンテナンスまでを行っています。大学や研究機関はもちろん、近年はSDGs・ESGの文脈で再生可能エネルギー発電環境や地中・海洋環境のモニタリングなど、企業の新たな計測ニーズにも対応。山岳・農業・森林・雪氷・道路・海洋など、どのような条件下でも確かなデータを提供し、環境の変化を数値に変えます。



植物の光環境評価と生理反応の観測に

携帯型分光放射計で、光合成有効光子密度 (PPFD) の測定や、
光合成蒸発散測定装置で、野外フィールドでの測定が可能です。

装置のデモについてはお気軽にお問い合わせ下さい



LC pro T 光合成蒸発散測定装置

CO₂, H₂O, チャンバー内温度, 光量を
制御して CO₂, H₂O, PAR, 温度, 葉温,
チャンバー内流量を測定します。

MS-730 携帯型分光放射計



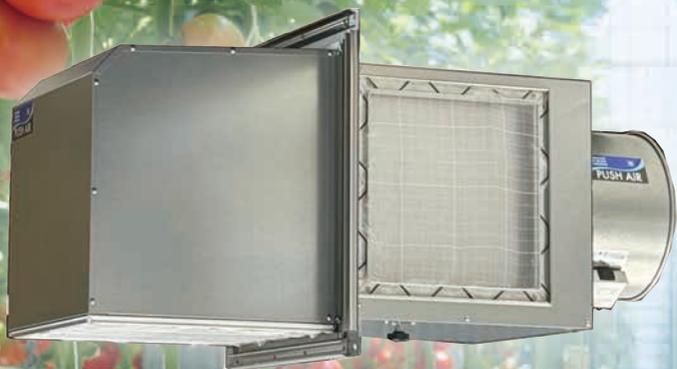
スマートフォンと WiFi 接続してスペクトル, GPS 情報,
撮影画像を保存できます。レーザーポインタ付きで
機動的な測定が可能です。

英弘精機株式会社

www.eko.co.jp | info@eko.co.jp

FULTA

農業を風でささえる



内気循環・外気導入兼用ダクトファン



外気導入ハウスヒータ



気温差制御対応防霜ファン



燃焼加温タイプ防霜ヒータ

夢・感動・喜びをあなたと一緒に

FULTA 電機株式会社

☆●本 社 名古屋市瑞穂区堀田通7-9 〒467-0862 ☎(052) 872-4111(代) FAX (052) 872-4112

○仙 台(営) TEL (022) 788-3861(代) FAX (022) 788-3862
○北 関 東(営) TEL (0276) 75-3831(代) FAX (0276) 75-3833
○品 川(営) TEL (03) 3768-2298(代) FAX (03) 3768-2299
○長 野(営) TEL (0263) 53-1115(代) FAX (0263) 53-1005
○静岡(原) TEL (0547) 47-3311(代) FAX (0547) 47-3301
○浜 松(営) TEL (053) 438-3490(代) FAX (053) 438-3492
☆●名古屋(営) TEL (052) 872-4113(代) FAX (052) 872-4160

○大 阪(営) TEL (072) 968-0991(代) FAX (072) 968-0995
○高 松(営) TEL (087) 845-2011(代) FAX (087) 845-2010
○松 山(営) TEL (089) 946-7530(代) FAX (089) 946-7537
○福 岡(営) TEL (0942) 44-4411(代) FAX (0942) 44-4421
○熊 本(営) TEL (096) 312-7730(代) FAX (096) 312-7731
○宮 崎(営) TEL (0985) 39-8911(代) FAX (0985) 39-2522
○鹿 児 島(営) TEL (099) 269-4711(代) FAX (099) 269-1133

品質マネジメントシステム国際規格
ISO9001 認証取得事業所(○印)
情報セキュリティマネジメントシステム国際規格
ISO27001 認証取得事業所(●印)



環境マネジメントシステム国際規格
ISO14001 認証取得事業所(☆印)



●●大 府 工 場 TEL (0562) 46-8111(代) FAX (0562) 46-8112
○技 研 工 場 TEL (0562) 48-2000(代) FAX (0562) 48-3061
○春 日 井 工 場 TEL (0568) 88-6311(代) FAX (0568) 88-6300
☆佐 賀 工 場 TEL (0952) 23-5599(代) FAX (0952) 23-2112
フルタ・エンネット 株 TEL (053) 436-4321(代) FAX (053) 436-4376
株フルテック柳川 TEL (0944) 75-1371(代) FAX (0944) 75-1375
株フルテック熊本 TEL (096) 312-7732(代) FAX (096) 312-7731
フルタ熱機 株 TEL (0985) 75-1501(代) FAX (0985) 75-9188

○印は、ISO9001 認証取得事業所です。 ☆印は、ISO14001 認証取得事業所です。 ●印は、ISO27001 認証取得事業所です。

FULTA ELECTRIC MACHINERY CO.,LTD.



AT

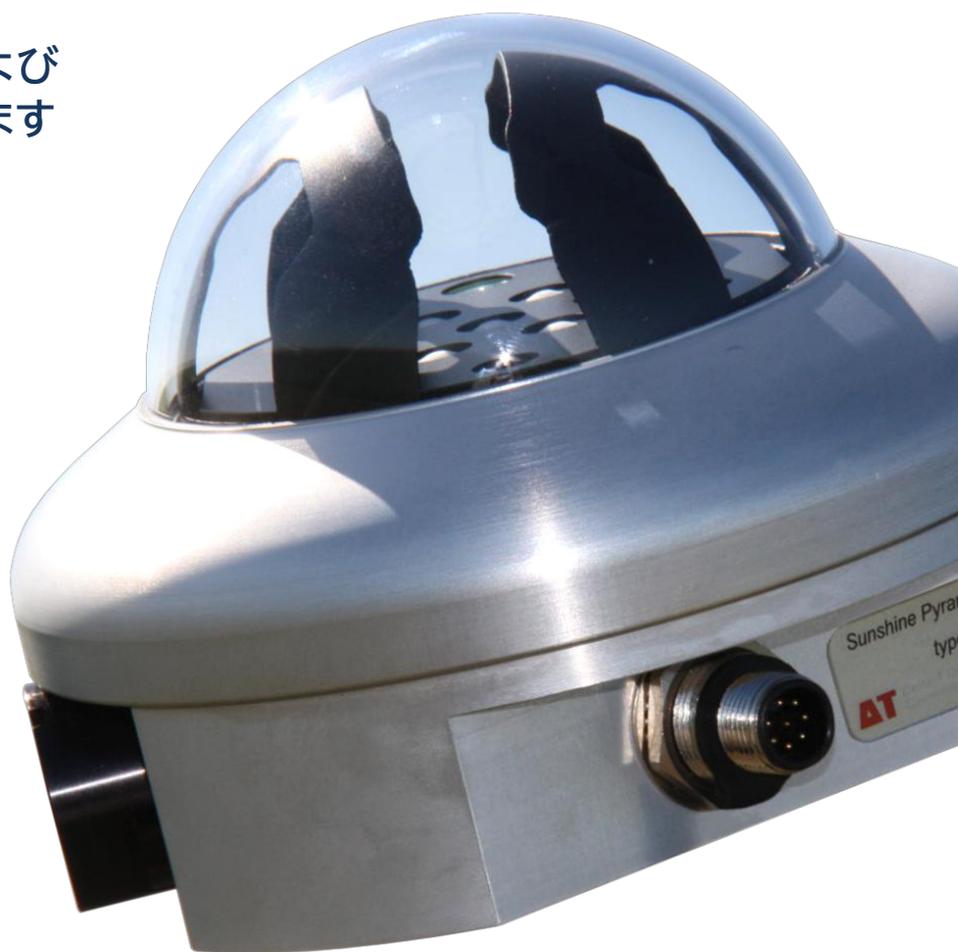
SPN1 日射計

太陽エネルギー観測用の 革新的ソリューション

SPN1は直達/散乱日射および
日照時間を正確に測定できます

- 直達/散乱日射
- 可動部品がなく、調整も不要
- 直達日射強度(DNI)計算
- 日照の状態

SPN1は、太陽光発電設備の効率を
観測できます。複雑な調整や遮光リング、
その他の可動部品を必要とせずに
直達/散乱日射を測定できるため、
太陽光発電集光器(CPV)の設置場所を
選択する際、特に力を発揮します。



SPN1は、GP1などのデータロガーへの接続や
RS232経由でPCに直接接続することができます。

新しい
DNI
計算

SPN1日射計の測定結果を用いて、
太陽追尾、水平設置および傾斜設置を
行うための直達日射強度(DNI)を計算できます。

農作物用携帯型キャノピー解析システム

SunScanは、作物キャノピーのPARをフィールドで測定し、葉面積指数やバイオマス生産に関する貴重な情報を提供します。

- 植物キャノピーにおける入射および透過PARを測定します
- 葉面積指数(LAI)を直接表示することができます
- BF5サンシャインセンサーは、入射光の全天日射量と散乱日射量を測定するリファレンスです
- 曇り、晴れ、変わりやすい条件下で使用可能
- ポータブル、耐候性、バッテリー駆動

概要

SunScanは、作物キャノピー内の入射・透過光合成有効放射(PAR)を測定・分析するシンプルで柔軟なシステムです。作物へのPARの浸透について重要な情報を提供し、作物の比較研究などでは、品種や処理による影響を切り分けるために不可欠です。特に、多くの農作物で見られるような、低く規則的な低いキャノピーに適しています。

SunScanは、ほとんどの光条件下で使用することができます(正午近くが最適)。

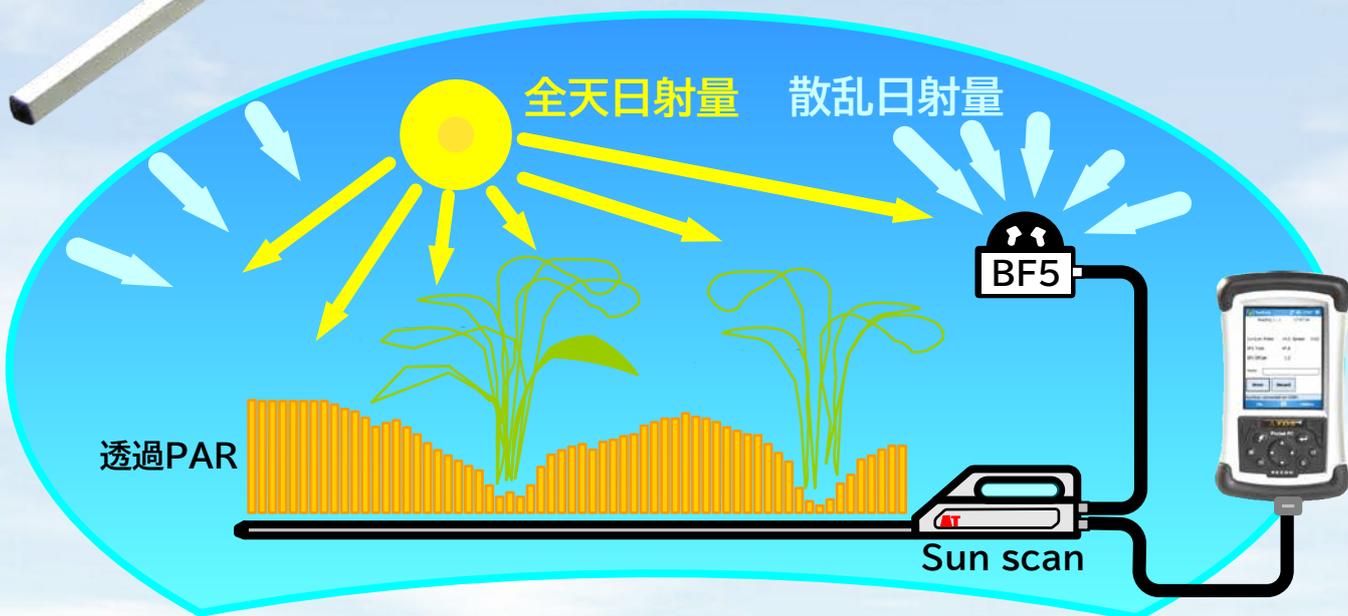
SunScan プローブ

長さ1mのプローブに64個のPARセンサーのアレイが埋め込まれ、RS-232ケーブルで携帯型PDAに接続されています。読み取りが行われると、すべてのセンサーがスキャンされ、測定値がPDAに送信されます。

プローブに沿った平均光量が計算され、詳細なPARマッピングのために必要であれば、個々のセンサーの読み取り値をすべて利用することができます。

プローブのハンドルにある操作ボタンで、要求に応じて迅速かつ簡単に連続測定が可能です。

PDAからのプログラム制御により、無人でロギングを行うことも可能です。測定値は、PAR($\mu\text{mol}\cdot\text{m}^{-2}\cdot\text{s}^{-1}$)およびLAI($\text{m}^2\cdot\text{m}^{-2}$)の単位で表示されます。



SunScanの主要コンポーネントとその接続